

助字詳解

078419-001-9

815.7-M485之

助字詳解 卷之1 3

皆川 淇園 / 著

M9

DAC-2096



815.7

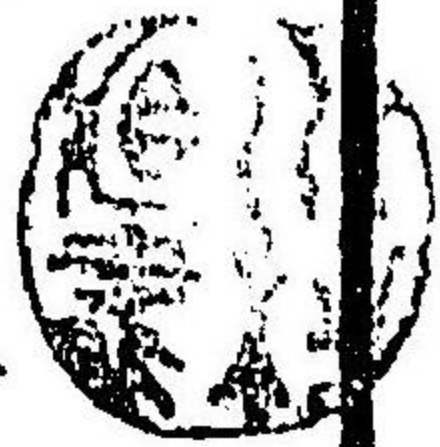
M485

(W)

815.7
M475

加
藏
勛

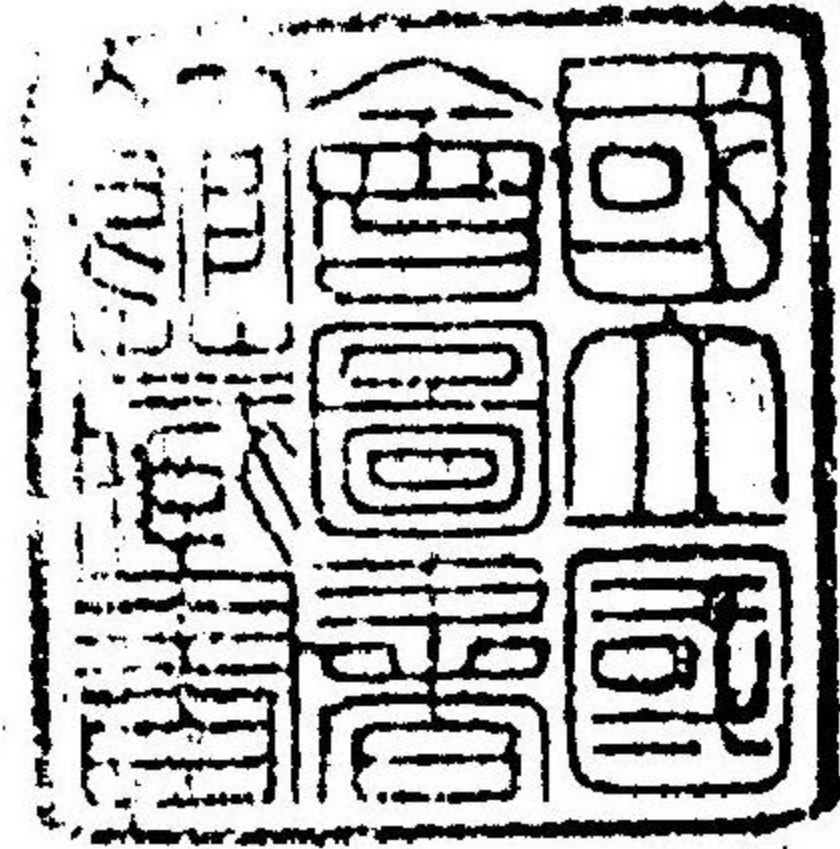
字詳解序



古伏羲氏始畫八卦三墳五典八索九丘
之書相繼出而文王之演周易也仲尼之
述繫辭也並皆辨名開物之野以為作者
而其所謂名物者乃字義也降逮秦漢學
亡其傳道非其人字義之解率取近似以
彼喻此名物轉背割詰愈遠偶有用心焉
者徒求諸形貌不知可求諸聲象遂致聖
經不明大道湮晦矣恭惟先師淇園先生

功字詳解

序



寄贈

村上ヒデ殿



430321

生乎千載之下萬里之外以聰明之質出
放之才羣思精慮于周易數十年乃知闡
物之法存焉據此而作音記萬象用以闡
物乃所謂立象盡意開而當名者萬不失
一於是自夫孝悌仁義諸德物之名至古
今慣用之字詳辨其蔽象與其義訓傍引
古書以徵證會通之其著作名疇及詩經
左馬助字法虛字解實字解等書即皆是
也而虛字解獨間與因更作之詳解如助

字三書非不備然其解畫作文之所闡係
最大矣因又作之詳解丁寧反覆蓋餘蘊
也其諸書皆既上梓行于世助字詳解之
作在先師末年故未完畢稿今茲幸未君
猷先生與社友授此書以付剞劂乃運命
叙於知底知底以辱蒙不棄廁郵名弟子
之籍也不敢辭謝謹書其端曰孔子曰名
不正則言不順乃知學詳明名物可為始
名物得詳明則聖經可以得精究材德因

可以立成而古先王之美績善政亦可以
 得後舉觀於今控遠矣則開物之學豈不
 甚大乎知底恐世之學者或輕見此書不
 深留心焉者因言甘所原出於古之由又
 言名之可重而助字之不可不家細究之
 故以為序也文化八年秋八月

門人 熊登戶部知底謹識



助字詳解卷之一目次

總論 初丁 矣 九丁 止附 也 十三丁 焉 十五丁
 省矣也焉等文字法 十六丁 歟 廿四丁
 夫 廿六丁 哉 廿七丁 諸 卅二丁 旃 卅三丁
 之 卅四丁 而 卅七丁 然 四十丁

助字詳解卷之一

平安 皆川愿伯恭 著

男允君猷 全

門人 中川恪慎卿 校

總論

凡フ助字ト称スルモノハ唯本邦ノ言語ニ用ユル所ノテニ
ヲハノ類ナリト心得ベシ。サレバテト云フハ聞人ニ只今言
タル所ノヲヌヤハリ引リ持テ後ヨリ言フ事ヲハ其引ハリ持
ルニ付ケ合ヒテ思ワス意持ナリ。ニト云フハ聞人ノ心ニ
今言タル所ノヲヌ後ヨリ言フ物事ノカ、リ往夕場処ニシ
テ思ワス意持ナリ。ヲト云フハ聞人ノ心ニ今言タル所ノ

テハ平日ノ言語一切ニ皆其意ノ疑迷ヲ生スルニナリ後
ニハ或ハ無体ナル強誣ノ説ヲツケテソレヲ言出シ聞者
腹シテ笑フニモ至ルアル

凡ク言語ノ道ニハ本邦ノ人ノ平常言語ノ間トイヘハヤハ
リケ様ナル妙ナル道理ヲモチアルモノナリサル故ニ西土
ノ中古ノ諸名賢古籍ニ博覽ニシテ廣識胸ニ滿チ文辭ニ熟
習シテ咳唾篇ヲ成スノ人トイヘハ古書ヲ解シ文理ヲ辨ス
ルニイタリテハ謬誤冊ニ充チ強誣帙ニ盈タル多キヲ
致セルナリ余嘗テ右様ノ事ノ文辭言語ヲ執アツカフ内ニ
アルヲ漆塗ノ木屐ヲ着ケテ氷ノ上ヲ走り行クニタトヘ
タルヲアリ其故ハ漆木屐ヲ以氷上ヲ行ク人ハ足ヲ輕クフ
ミ身ヲ引擧ケテハヤク歩ム時ハ滯リナク行カルニ足ニ
カヲ用テツヨクフミトメントスル時ハ是非ニスベリテコ
ロブナリ先賢ノ古書ヲ解スルニ謬語多キハ並ニ皆是ノ
如キノ由ヨリ出タルナリ又歐陽永叔蘇子瞻等ノ文其日
用尺牘其他諸奏議記誌雜識八類ハ意氣縱橫ニシテ筆力

越シタレハ古文ノ体ニ擬シテ作レル諸論説ノ類ニ至リテ
ハ辭理錯繆多ク語勢毎年不順ナル多シ元明ノ諸家ハ尚
更是類多クシテ枚舉スルニ遑ナキ程ノナリ余嘗歐蘇文
彈ト云フ一書ヲ著シタルアリ後ニハ其稿ヲ失ヒテ上木
セザレハ門人ノ内ニ謄寫セシ人多ケレハ其ヲ得テ讀人ア
ラバ余ガ過論ニ非サルヲ知ラルヘキナリ

文字言語ハ右ノ如キ物ナル故ニ民日用スレハ其旨ヲ知ル
トニイタリテハ其事甚難キモノナル故ニ其道ノ立チアル
処ヲ深ク考ヘテ其條理ニ戻ラザルヤフニシテ學バザレバ
世俗ニ所謂畠水練ト云モノ如キ類トナリテ終身ソレヲ
爲居リテモ始終疑網ノ中ヲ出ルヲナク自得シテ通達スル
ナリ難カルベシ凡ク世ノコレヲ知ラザルモノハ言語ハ
何カナクヨク言語スル人ニ付キテヒタト其マ子ヲスレバ
コレニテ能辨ノ人トナリ詩ヲ作り文ヲ書クトモ善ク作り
タル詩又ヒタト熟誦シ善作りタル文又ヒタト倣ヒテ作レ
バソレニテ詩文ヲヨクスル人トナリ古書ヲ解スルモヒタ

ト古書ヲ玩ビテ解シ見レバ、フレニテ古書ハヨク通曉セラ
 ル、モノトノ思ヘリ。是ノ如キノ見コミニテ、是ノ如キノ
 學ビカタヲナスハ、イツレモ皆專ナキ畠水練ラスルノ類ナ
 リ。昔シ楚ノ優孟ト云タル人、孫叔敖ガ死後ニ、孫叔敖カ衣冠
 ヲ着テ、其言笑態度ヲウツシタルガ、能ク孫叔敖ニ似タリト
 云ルヲアリ。サレバ、孫叔敖ノ貴ブベキハ、其才徳ノ人ニスグ
 レタル所ニ孫叔敖アリテ、其衣冠言語態度ノ似タルハ、何ノ
 用ニモ立モノニ非ザルモノナリ。言語モ其物ヲ辨シ、理ヲ明
 スルノ用ニ施スベカラズニバ、口氣ハ似タリ。何ノ益アラ
 ニヤ。詩ヲ作りテモ、物情ヲ感動スベキニ到ラズ。文ヲ作りテ
 モ、事物ノ情理ヲ曲寫スルニ足ラズ。古書ヲ讀ミテモ、其作者
 ノ精意ニ通到スルヲ得ベカラザレバ、何ホドニエヲ積ミ
 タリ。凡、畢竟隔靴搔痒ノ伎倆ヲ獲ルノミニテ、何事モ實用ニ
 中ルニハ、ナリ難カルベシ。
 何故ニ、右ニ述タル如クニ言フトナレバ、先前ニ書ヘル所ハ
 本邦ノ人ノ平常日用ノ言語ヲ用ユルニ、思慮操議ニ涉ラズ

シテ、大都皆言々節ニ中リ、語々其宜ニ協ヘルヲ得ル故又
 明スベシ。凡ソ人ノ心中ニ動ク神氣ハ、即チ天地間ノ神氣ノ
 通ヒテ、人ノ心主ノ觀感スルトコロノ、萬象ノ變動ノ運為ヲ
 現ジ、又因テ其心主ノ思慮ノ象ヲ作ス。其為ル物ナル故ニ、
 其人々ノ心中ニ動クトコロノ、彼我屈伸出入往來、千態萬狀
 擧數ベカラザレモ、ノナリ。又其觀感スルトコロノ、
 物ノ情態ニ隨ヒテ、フレヲ形容シテ言フノ用ナル故ニ、此
 亦千萬聲ノ變化トナレリ。サレバ聲音ノ妙用ハ、其神氣ノス
 ブルトコロニ屬セルモノニテ、其象自然ノ勢ニヨリテ、神氣
 ヲリフレニ應感シ、其分々ニ應スルノ聲ヲ出セリ。是故ニ、心
 ハ神氣ニヨリテ、其動ヲ作ス。其得、神氣ハ、聲音ノ萬別ニ乘
 リテ、其情ノ微至ヲ盡ス。其得、心ト聲音トノ相
 於ケルハ、其中間ニ神氣ヲ介ス。直通ヲ得ベカラザレモ、
 ナリ。其事是ノ如クナルモノナル故ニ、人々ノ言語ニ於ケル
 ハ、日用スレバ、其情ニ連スルヲ甚難シ。易ノ繫辭傳ニ、精義入
 神、以致用也。トイヘリ。ガレバ、右ノ神氣ノ用ヲ、己ニ通知スル

トヲ得タク思ハ、先其精義入神ノ道ヲ思ヒ求ムベシ、
精義入神ノ道ト云ハ、易ノ開物ノ學即チ是ナリ、右ノ開物ノ
學ニ通ジ得レバ、神氣物ニ感ジテ、其象ヲ聲音ニアラバスト
コロ、古モ今モ一轍ノ事ニテ、其古、今ノ差別、其義ヲ用ユ
ルトコロ、古ハ深シテ全ク、今ハ淺シテ盡サバ、ルノミフ相違
ナルト、又其風習ニヨリテ、言語繁簡ノ差別アル故ニ、知ラガ
ルモノヨリコレヲ見レバ、截然各異ナル如クニアレ、凡知ル
モノヨリコレヲ觀レバ、神氣ノ用ハ、萬古一轍ニテ、少シノ相
異アルトナシ、右ノ如キモノナル故ニ、前ニモ先ツテ致ナリ
ト思フベシトイヘルナリ、
サレバ古人ノ書ヲ讀ミテ、其文意ヲバ、通シ知ラント思フニ
モ、先ツ其古人ノソレヲ言ニアラハシテ、ソレヲ書キツツケ
タル、其辭音ノ持合ヲナシタル処ニ、心ヲ付ケテ、其持合ヲナ
シタル処ヨリ、其意味ヲ推シテ、ソレニテ、其文意ノ全体ヲ通
シ知ラントシ、求ムルト肝要ナリ、左ニアラスシテ、讀ムナリ
ニシテ、其文意ヲ解スルトニセシトスレバ、多クハ己ガ意ヲ

主トテヨムトニナル故ニ、其文中ノ一二言バカリヲ讀取
リ、其餘ノ文字ハ遺シ置キテ、復細ニ其旨ヲ究メズ、又、其讀
取タル其一二言ヲバ、己ガ意ヲ綴リ合セテ、作者ノ旨ニハ無
キトテ強誣シテ、其旨ナリト思フトニナルト多シ、先儒ノ古
書ヲ解釋シタルニ、此弊ニ陥リタルト甚ク多クシテ、其明ニ
セシトシタルガ、却テ先聖ノ旨ヲ闡蔽スルトニナリテ、後世
ノ人ヲモ誤タス、凡、往々ニアルトハ、亦全ク文理ハ天下ノ文
理ニシテ、其神用ニ合セザレバ、其理ノ昭晰ナルニ通ジガタ
キ故ニ、其神用ヲハナレテ、心ノ思フ処バカリヲ以テハ、讀ミ
得ヘカラズ、解シ得ベカラザルト、知ラザル故ノ過ナリ、
凡、天下ノ文理ハ、右ノ如クナルモノニテ、總テ天下ノ神明
ノ徳ノ辨別スル所ニ屬シタル物ナル故ニ、天下ノ明德ハ、天
下ノ文徳ト相合ス、即チ一ニシテニ、ニシテ一ナルモノナ
リ、サレバ、一切ノ物ノ道理モ、其文ニヨルニ非サレバ、立又モ
ノナリ、ソレヲ知ラズシテ、文字ヲ離レテ、物ノ道理ノズチヲ
會得セシトスル人間、阿レ、此ハ究竟無理ナルトニナル故

ニ。夕トヒ其理ニ通達シテ其ハタラキ縦横無礙ニシテ自在
 ニ流通スルヤフニ見ユルトニナリテモ是ハ譬バ浮萍ノ葉
 ノ水面ニハビコリテ瀾滿繁舖シタルガ如キモノナル故ニ
 其水ガ風ニ吹カレテ大ニ動ク時ニイタリテハ忽チ其瀾滿
 繁舖ノ姿ヲ失フガ如クニ無クナルベシソノ辨ニノブル
 道理モソレニ根トナルベシ往古ヨリソレヲ傳ヘタル文字
 ノ証ナケレバ其道理ヲ其心ノ内ニ執レルニモソレヲ繁キ
 維持シテ古人ニ引合セ付クル種ナキ故ニ其中ノ實ニ信根
 立ズ信根立ザル故ニ其心ノ底ニハトカク疑惑ヲ抱ク
 トニナリテ畢竟浮虚ノ贅用トナルトナリ
 サレバ天下一切ノ事物ノ道理ハ皆其名ニ属シテ立ツモノ
 ニテ名ノ別ハ即チ文字ノ別ナリ文字ノ義趣ノ別ハ神識ノ
 ツレヲ比會シテ斟酌處分スル所ニヨリテ出ルモノナル故
 ニ神識ニ考ヘテ其斟酌處分スルノ趣ヲバ心ニ忘ルトナ
 ク思ヲツトメテ其処ニ至ラサレバ古人ノ文ヲ讀ミテ其
 真旨ヲ解釋シ得ルトニハ至ラレザルト思フベシ己ガ心

ヲ述ヘテ文字ニ書キアラワシ人ニサトサントスルトモ其
 文理ノ款曲ノ盡スベキ処ガ行キトカザレバ己ノ三聞エ
 テ人ニハ聞エヌ文字トナルベキナリ
 サテ一切ノ文理ト云モノモ其語勢ニヨリテ生スルモノナ
 リツノ故ハ語勢ト云モノハ其時ニアタル神用ノ活機ヲ
 フクミタルモノガ其語勢トナリタルモノナル故ニ其活々
 ル神彩氣勢ヲ其儘ニシテ貫又カシテ書クトガ文ノ要ナル
 故ニ夕トヘバ緩ナルニハ緩ニシテソレヲ承テ急ナルニハ
 急ニシテソレヲ承ル即チ文理ノ生スル所ナリ一切ノ語ノ
 詳畧先後ノ宜モ此處ヲ矩トシテ考ヘテ其宜不宜ヲ別ツト
 ナリ
 語勢ト云モノハ文字ノツキ合セ上語意ノウツリ操ノ品ノ
 立チカタニヨリテ其中ニ含メル意氣ノキオヒガ即チ語勢
 ト云モノニナルトナルガ故ニ其要トスルトコロハ字義ナ
 リ然レモ吾所謂字義ハ世ニ稱スル所ノ字義ト異ナリ世ニ
 稱スル所ノ字義ト云モノハ字書ニ注セル所ヲ以テ字義ト

オモヘリ。シカレ。此ハ余著ハセル問學舉要ニモ、戴侗ガ六
書故ノ説ヲ引テコレヲ辨ゼリ。六書説文ニ倚依互ニ相釋ト
云ルニテ知ルベシ。説文依ノ注ニ倚也ト注シ。倚ノ注ニ依也
ト注シテヨセ合セテ考フルニ、依倚ノ二字混ジテ分ツベカ
ラザルコトナルナリ。字義ハ字書ノ注ニテ、其大畧ハ知ルレ。其
其精義ニ至リテハ、其文字ノ聲ニヨリテ、易ノ開物ノ法ニヨリ
テ、コレヲ開カザレバ、トクトシタル処ハ知レザルコトナリ。然
レ。開物ノ法ハ、其法ニ精練セザレバ、其趣知レ難キモノナ
ル故ニ、余初學ノタメニ、此ヲ畧通サセニガ為ニ、實字、解、虛字
詳解ヲ著セリ。今此助字詳解モ、其説ケル処ノ義、並ニ皆開物
ノ法ヨリ出タルモノナリト心得ヘシ。
凡字義、實字ハ知リ易ク、虛字ハ稍難シ。虛字ハ虚ニシテ、タ
其模様ノニアリテ、人ノ心ニフノサマヲ持チテ後ニ、知ルベ
キ故ナリ。助字猶更其虚字ヲ以テ、物若ハ事ノサマヲ形容ス
ルニ付ケテ、其ヲ開ク人ノ心ニ、フレヲ持チ思フ処ニツケテ、
其ツレヲ持チテ思ヒヤフ人ノ心ノハツミヲ活シテ、思ハセシ

トテ用ユル文字ナル故ニ、尤モ心ニ入り難キモノナリ。
凡物ノ名ノ分ルトコロハ、並ニ皆其外物ヨリ、其物ニウツ
リ合フトコロノ筋ニヨリテ立ツモノナリ。譬バ同シ一人ナ
レ。父ヨリウツリ合セテ呼ヘバ、子ナリ。君ヨリウツリ合セ
テ呼ヘバ、臣ナリ。兄ヨリ呼ヘバ、弟。弟ヨリ呼ヘハ、兄。妻ヨリ呼
ヘバ、夫ナリ。一切ノ文字、並ニ皆事若ハ物ノ名ナリ。タトヘバ、
喜悦、怡、依ト云四字ハ、繫スルニ一ツノヨロコビノコトナリ。サ
レ。此今マデ心氣ノ元ニアリタルヨリ云ヘバ、心氣ガウキタ
フ元外ニアラハル、ト云フニマワリテ、喜ノ字ナリ。今マデ
ハ心ニイマダ行トバカズト、未得トシ思ヘルニカケテ云ヘ
バ、悦ノ字ナリ。フレニ心ガノリテ、思ワズ氣ガフレニ引レテ
ノリ行ク様ニナリタルニシテ云ヘバ、怡ノ字ナリ。今マデ勢
ナク内ニ閑テアリタルガ、心ヲ得タルニヨリテ、急ニ外ガワ
ヘハ子出シタル処ニシテ語レバ、依ノ字ナリ。サレバ物ハ同
シ。ナレ。唯其ウツリ合ノスチニヨリテ、右ノ四字ノ別
ナルコトナリ。一切ノ虚ナル文字、皆是類ニテ推シ知ヘシ。

助字ハ右ニ言ル如ク。物若ハ事ノサマヌ心ニ持チ思フ処ニ
ツケテ。其持ヤフノ心ノハヅミヲ。活シテ思ハセシガ為ニ。用
ユル字ニテ。愈盛ニシテ知リ難キモノナリ。然レモ一切ノ文
字ノ義ヲ。心ニ通知スルヲ得ント思ハバ。爰ニ一ツノ心得
アリ。文字ヲ積累シテ。其文字ノ義ノウツリ合ニテ。物ノ事情
ヲウツシタル處ハ。譬ハ自鳴鐘ノ輪ヲフレクニ取クニ合セ
テ。鉛墜ヲ重リニカケテ。輪ヲ自カラメグラシ。フレニヨリテ
活動ノ機ヲ其中ニ合ニメグリテ。時ヲ告ル鐘聲ノ出ル如キ
モノニテ。其ヲエミテ作リタルハ。人ノ思ヒヨリ出タル也。其
成就シテ。其妙ノ見ワル。トコロハ。其輪々ノ取り合セト。鉛
墜ノ重リノ。フレヲメグラスニヨリテナレルモノナリ。其處
ニイタリテハ。人エノ手ツカフベキトコロニアラズ。文字モ
右ノ自鳴鐘ノ如キモノニテ。文字ト文字ノ義ノクニ合セニ
テ。其スレ合ノ間ヨリ。其文義ヲウミ出セリ。助語ハ其鉛墜ア
ルガ如キモノニテ。其文字ト文字ノ持合ノ勢ノハヅミヲモ
タセル道具ナリト思フベシ。今此助字詳解ハ。此処ヲ喻サン

タメニ。大抵毎字ニ。先本邦ノ人ノ言語ノ内ニ。其字ヲ用ユベ
キハヅミノエ合ノ。フレヲ用ユベキ処ヲ舉ゲテ。フレヲ喻ス。
學者心ヲ潜メテ考ヘテ自得アルベシ。

助字詳解卷之一

矣

止字附

此字ハ語尾ニ用ユル字ニテ本邦ノ人ノ言語ニハ此矣
 字ヲハノ用ユベキ処ハナキ様ニ思ハル、ナリ、サレ、
古今集 御侍御傘ト申セ宮城野ノ木ノ下露ハ雨ニマサレ
 リトヨメル此歌ノ語尾ノマサレリノ下ニ西土ノ文十
 レバ矣ノ字アルベキ処ナリ故ハ矣字ハ總別物ノ左様
 ニアルサマヲ一ツハナレテ向フニス置キテ、ツレニ
 付ケテノ事為ノナスベキヲ思ワセ又ハナシユクワサ
 ヲ付ケタルヲ語ルニ用ユル字ナル故ナリ、
 同集 足曳ノ山ノマニクカクレナニ浮世ノ中ハアルカ
 ヒモナシトヨノルナシノ下ニ西土ノ文ナレバ、
 アルベシナシト云フガ向フニ立チアル故ニ隠レナニ
 ト思フ意ヲゾレニヨリテ思ウツラセル、ニシテ云ル
 コハ口モチナル故ニ矣字アルベキニアタルナリ、

力
七

同集玉盃ノ小瓶ヤイヅラ小ヨロギノ磯ノ浪分オキエ
 出ニケリ此ケリノ下ニモ矣ノ字アルベキ語勢ナリ此
 歌ハ寛平ノ朝ニ上ノ侍中瓶ヲモタセテ后宮ノ方ニ御
 酒ノ餘ト云テモタセテ奉リケルヲ女藏人臣咲テ瓶ヲ
 御前ニ持出テ何トモ言ハス成ニケレバ使ノ還リ來テ
 其事ヲカタリケレバ其藏人ノ中ニ敏行朝臣ガヨニオ
 クレル歌ナリ存ノ外ナル御前へ出テシマフタリト云
 コ、ロニテ出ニケリトヨメルナリ故ニ矣ノ字アルベ
 キニアタルナリ此ヨリ下ハ語ノ中程ニ矣ノ字アルベ
 キ語勢ヲ云ニタトヘバ
 同集 蕨ノ露玉ニヌカント取レバケヌヨシ見ム人ハ枝
 ナガラニヨ此ケヌハ消ヌト云フニテ此ケヌノ下ニモ
 矣ノ字アルベキ語勢ナリ消タルフガ已ニ向フニアリ
 テ立チタル故ニ枝ナガラ見ヨト云フニ自カラ思ウワ
 ラセルフテシテ云ル意持ナル故ナリ
 同集 名ニメテ折レルバカリゾ女即花我オチニキト

人ニカタルナトヨメルオチニキノ下ニモ矣ノ字アル
 ベキ語勢ナリ左標ノフアリタリトシテ向フニフレヲ
 立テスエテ語ル語勢ニハ此類並ニ皆矣ノ字アルベキ
 ナリサレモ古眞夏典謨訓誥ノ文ニハ此字ヲ用タル
 見アタラズ是ハ典謨訓誥ノ文ハ物ノ情實ノ道ノ規則
 トナスベキヲ言述ルフ主トセル故ニ矣也焉等ノ事
 物ノナリユキ又ハ物ノ品ワケ其事物ヲヨセテ思ハス
 ル場処ヲ指シ示ス語勢ヲ用ルハナキ故ニ用ザルナ
 リ夏眞ノ世トテモ日用ノ語中ニハ用タルナルベシ
 左氏ニ用タル矣ノ字ハ余著ハセル左氏助字法中ニ詳
 ナレバ今舉ヒズ詩齊風ニ雞既鳴矣朝既盈矣ト云ルハ
 問答ノ語ナリ女ト士ハ同寢シテアリタルガ女ガ夫ニ
 告テ雞が既シテハウタフベシト云ナラバ士ヨリハ其
 旨ヲ引トリス、メテ朝廷ニ朝セル者ガ已ニ盈フル
 ニナルベシト云ヘシト言フナリ此ハ未然ノ処ノサ
 ヤフニナリユクベキ様子ヲ向フニ立テアレニテ思ヲ

ウツラセニトシテ言タルコ、ロモチナリ、大雅ニ鳳凰
鳴矣于彼高岡ト云ルハ、人ガ己ニ語リテ、鳳凰ガ鳴テ居
レリト云ハ、彼處ナル高岡ノ處ニ于ニセルナルベシ
ト思フベシト云フナリ、此ハ語ル人己ガ見タル様子ノ
アチラニ有ルサマヲ向ニ立テ、語ルコ、ロモチニシ
テ、矣ノ字ヲ置タルモノナリ、詩ノ助字モ、詩經助字法ニ
詳ナリ、但シ召南ニ、亦既見止、亦既覯止、我心則降ト云ル
齊風ニ、取妻如之、何必告父母、既只告止、曷又鞠止ト云ル
止ノ字矣ノ字ニ似タルヤフナレ、止ハ左様ニ云フニ
ナリタラバト云フ意ニテ、今ノ處ヲサキニテ成リ往ク
處ヘヤリ越スフニシテ思ハスルコ、ロモチナリ、矣ノ
字ハ、大ニ異ナリト思フヘシ、鞠止ノ止ハ、上ノ告止ノ止
ノ響ヲ、今一段持コシテ、鞠ノ字ノ下ニ付ケタルセ、ナ
斗、檀弓ニ孔子哭子路於中庭、進使者而問、故使者曰、醢之
矣、遂命覆醢トイヘルハ、衛ノ國ニテ子路ヲ殺シテ、其肉
ヲハ醢シセリト告タルトニシテ、衛國ニテノ様子ヲ向

フニ立テ、ソレヲ語ルコ、ロナル故ニ、矣ノ字ヲ用タル
ナリ、孔子ノ防ニ合葬シ給タルニ、孔子先友門人後、雨甚
至、孔子問焉、曰、爾來何遲也、曰、防墓崩、孔子不應トイヘル
此防墓崩ノ下ニ、矣ノ字カ也、字アルベキニ似タル處ナ
リ、遲ク來リタル故ヲ明カス意ニトリテハ、也ノ字ナリ、
只其崩レタルヲ告ル意ナラバ、矣ノ字ナリ、矣ノ字ハ前
ノ語勢ニカナワヌ故ニ、マダシモ也ノ字ナルヘキトナ
ルガ、其也ノ字モナキワケハ、防ノ墓ガ崩タリト思シ召
セト云キニニテ、矣也等ヲ用テ、別段ニ向フニ立テ、言
ヒ、又ハ品ヲワケテ告ルニ及バ、又也ナル故ナリ、矣也等
ヲハワスベキ處ヲ知ラザレバ、置クベキ處モ知レヌモ
ノナリ、考フベシ、魯語ニ、公父文伯母ノ文伯ニ告タル語
ヲ聞テ、仲尼ノ語ニ、弟子記之、季氏之婦不淫矣ト云給ル
ハ、季氏ノ婦ハ淫セヌト云名ノワク、トニナワテアルト
云コ、ロナリ、其次章ノ以為、別於男女之禮矣ト云給ル
モ、男女ニ別ツノ禮ニアタルトニナリテアルトイフコ

コロナリ、齊策ニ為君舎人、而内與夫人相愛者、亦甚不義
 矣。君其殺之。トイヘルハ、夫人トノナレハ、甚不義ト名
 付シル。トニ成ツテアル。トナレハ、君ハ其取扱フニハ、コ
 レヲ殺ス。トニナサレヨト云。トニテ、コレヲ殺セト云。ト
 ラ言ハニトテ、甚不義トイフ名ノ付ク。トニナリアル。ト
 フ。向フニ立テス。トエテ、其今ノウツリヲ取ラニタノ。ト
 ノ字ヲ置ケル。トモノナリ。周策ニ、養由基ガ柳葉ヲ射。屠
 ル処。又有一人過曰、善射。可教射也。矣。トイヘルハ、射ル
 ガ上手ジヤ。射ル。トヲオシ。トエラル。トモノチヤト云。フニ
 ナツテアル。ト云。フコ、ロナリ。莊子讓王篇ニ、曾子ガ貧
 シテ、衛ニ居リテ、衣冠弊レナ。ラ、商頌ヲ歌ヒ、聲滿天地。
 若出金石ト云。下ニ、天子不得臣。諸侯不得友。故養志者、忘
 形。養形者、忘利。致道者、忘心。矣。トアリ。此ハ天子諸侯ノ友
 トシ。臣トスル。トヲ得サル。故ヲバ、説キタルニテ、故養志
 ノ故ノ字。故ニト讀ムベカラズ。故ハトヨムベシ。其心立
 テ。形ヲ養フヨリハ、一段打ヨシタル心ガケニテ、志ヲ養

フ者ハ、形ヲモ忘ル、故ニ、天子諸侯ヨリ羈スベキ所ナ
 キ。故ニ、不得臣友ナリ。忘心ノ者ハ、又其上ノ一段ナリ。イ
 ズシ。モ、此矣ノ字ニテ、其内面ノ操ノ立カケニテ、依ラ
 ン。又操子ヲ立テシメシテ、サテ前ノ友臣ノ得サルノワ
 ケヲ、思ヒ合サセルコ、ロニテ、此矣ノ字ヲ置タルモノ
 ナリ。前漢ノ比ノ文ニ用ユル矣ノ字モ、其語理ガ、後世ニ
 ナリ行クニ隨テ、繁冗ニナル。故ニ、矣ノ字ハ同ジコ、ロ
 ナレハ、矣ノ字ニモタセルハ、グミガ、次第ニユルクナリ
 テ、輕クナリタリ。タトヘバ、巨ナル礎ニ、小家ノ細キ柱ヲ
 モタセタルガ如クニテ、礎ノカノ左ノミ見ヘヌ。トニナ
 リタル。ト多シト知ルベシ。此ハ矣ノ字ニ限ラズ、諸文字
 助語、並ニ皆右ノ如シト知ルベキ。トナリ。世説ニ、陶貞白
 仙ヲ好ミテ、謂人曰、仰青雲、觀白日、不為遠矣。トイヘルハ
 世ニハ遠矣ト云。トナレハ、我ハ左様ニ思ワズ、直ニ上界
 シテ、登仙シ到ラルベシト思フト云。トナリ。周子居云、吾
 時月不見黃叔度、則鄙吝之心已復生矣。ト云ルハ、吾ハ時

月アリテ、黄叔度ヲ見ヌ_レチヤト云_レニ、外ガワガナル
ニナリタル時ハ、胸中ニハ鄙吝ノ心入_レガ、モフハヤイセ
ニノ如クニ生ジテアル_レニナリテアルト云コ、口ナ
リ、イヅレニモ、後漢ノ頃ヨリ、言語ノ古ト異ナル_レニナ
リタル_レヲ、應紹ガ風俗通ニ、コレヲ言ヒテ、已ニ全ク論
タルガ、六朝ノ頃ヨリ、五胡ノ亂ヲ經テ、漢エ又往昔ヨリ
ノ語勢ニ、胡人ノ語勢ヲモ間一用ユル_レニナリテ、俗語
ト云モノ起リテ、日用ノ言語、全ク異ナル_レニナリテ、往
古ノ語助矣焉等ノ語ハ、多クハ唯古文ヲ倣ヒテ書クモ
ノバカリ、ソレヲ文字ニノ三用ヒテ書ク_レニナリタル
故ニ、漢土ノ人モ、古書ニ熟練シタル人ニアラザレバ、律
往用法ヲ誤失スル_レアリタリト見エテ、柳子厚ガ杜温
夫ニ復スル書ニハ、杜ガ也矣焉ノ用カタノ失ヲバ、譏リ
テ書ケル文アリ、唐ノ頃スラ右ノ如クナレバ、宋元已下
ハ猶更ノ_レナリ、サレバ、歐陽永叔蘇軾十トノ名賢モ、古
文ニ倣ヒテ書タル文ニハ、用字ノ誤甚多シ、故ニ宋元已下

也

ノ文ハ、法トスルニ足ラストシテ、今此書ニハ韓柳ヨリ
スベテ其文ヲ擧ゲテ例トセヌナリ
此モ語尾ニ用ユル字ニテ、本邦ノ人ノ言語ニ常ニ用ユ
ル所ノコレハソレヂヤ、カヤフノ_レチヤ、ナド云フヂヤ
ノ意ニアタル文字ナリ、向フ相手ノ神氣ニ持テ來ル_レ
ヲ、我語リテスヂヲ立テ、ワケ言フタルヲ、其内ニモワ
タル物ノ_レトシ、スハルニシ、思ハスルニ用ユ、譬ハ向フ
相手ノ神氣ニ、難波ノ蘆ト云_レヲ持チ居ルヲ、蘆ル人ガ
其蘆ヲ人ノ呼ヒ來リタルニ、其スヂヲ立テ、ソレハ伊勢
ノ濱、荻ト云フガソレヂヤトイヒテ、ソレヲ聞久ノ心ニ
ハ、然レバ此ハ其スヂニ合フモノトシ思ハスル類ナリ
古全集 春ノ夜ノヤミハアヤナシ、梅花色コソ三子香ヤ
ハカクル、此アヤナシト云ハ、無益ト云_レニテ、此アヤ
ナシノ下ニ、西土ノ人ノ語ナレバ、也ノ字アルベシ、春ノ
夜ノヤミハ無益ナト云名ノ付クスヂニユク_レチヤナ
リ

同集 第三月見レバチニ物コフ悲シケレ我身ヒトツノ秋
 ニハアラ子ド此秋ノ字ノ下ニ西土ノ人ノ語ナレバ也
 ノ字アルベシ我身ヒトツノ秋ヂヤト名ノ付クスヂノ
 物ニハアラ子ドト云氣味ナリ
 同集 今サラニ何オヒ出ラニ竹ノ子ノウキフシシゲキ
 世トハ知ラズヤ此ウキフシシゲキ世ノ下モ也ノ字ア
 ルベキ語勢ナリ憂フシ繁キ世ト名付ケテ其スチニナ
 リテアル世ヂヤトハ知ラスシテアルベキ様ナキニ何
 トテ生出タルブト云フナリ
 詩ノ邶風ニ我心匪石不可轉也我心匪席不可卷也トイ
 ベルハ心ハ石ニアラサレハ可轉ト云フニハナラヌス
 チナ物ヂヤナリ席ニアラサレハ可卷ト云フニハナラ
 ススチナ物ヂヤナリ總ジテ也ノ字ヲ用ユルハタトヘ
 バ瞽者ノ路ニ迷ヒテ行サマヨフニ聲ヲカケテ其スヂ
 又ハ物ヲシラセテブレハ溝ナリブレハ田畦ナリト云
 カ如シ其瞽者ノ心ニ素ヨリ物ノスヂクノ別レハ知リ

テ居レ正其ヲ以テ今ノ當面ノ物ニアテ、知ルヲナ
 シ得ザルヲバ傍ヨリ其當面ノ物ノスヂヲ知ラセテ其
 素ヨリ識リ居レルスヂニ合フニシテ知ラセ思フス
 ルニ多ク用ユルナリ左傳文十七年ニ鹿死不擇音小國
 之事大國也德則其人也不德則其鹿也麋而走險急何能
 擇トイヘルハ大國ガ德ヲ以テアシラハルレバ小國ハ
 其時ハ人ヲシクナリテソレニ向ハニ不德ヲ以テアシ
 ラハルレバ其時ニハ鹿ニナリテ中々ナワクナクテ
 身ノ全キヲ得ルカタヘバシリ赴クベシト云フナリ
 論語ニ君子人歟君子人也ト云ルハ君子人ト云モノニ
 スチガ協フト云フナリイヅレニモ餘ノ物ト其スヂヲ
 別ニシテ持チテ其スヂニ聞人ノ意ヲ紛レヌヤフニシ
 テ引ヘレテソレヲ言ハントスルニ也ノ字ヲ用ユ易ノ
 繫辭傳ニ是故卦有小大辭有險易辭也者各指其所之ト
 イヘルモ前ニ八卦ト辭トヲナラベ言タルニ後ニ八辭
 ノ一方ヲ舉テ語ルニヘニ聞人ノ紛ラシ思フナキヤ

フニトテ、別ニスチヲ立テ引ヌキ言ハント云、辞也者ト
 書レタルナリ、中庸ニ、性道教ヲナラベテ言タル後ニ、其
 道バカリニ擧言ス、道也者、須臾不可離也ト云ルモ同ジ
 意味ナリ、古文ノ中ニ、ナラベ言ハザレ也者ヲ用タル
 アリ、國語ノ中ニ、君也者ト書ケルニ、前ニ君臣民トナ
 ラベ言ハザレ也、其旨ハヤハリナラヘ言フ中ニ、引ワ
 ケスチヲ立テ、言タルナリ、論語中ニ、田也賜也ナト云
 ル、並ニ別人ニ引ワケテ、其スチヲ立テオキテ、其ヲ語ル
 コ、口モチナリ、有顔面者、好學、不幸短命、死矣、今也則亡
 ト云タマヘルハ、昔ハ顔回ト云モノアリテ、學ヲ好シタ
 ルモノアリタルガ、只今ノ門人ノ内ノスチニテ言フニ
 左様ノモノハナシト云フナリ、詩、召南ニ、無使尫也、吠ト
 イヘルハ、犬ニテモアレ、フレニモ吠シムルナカラン
 トセヨト云フナリ、邶風ニ、母也、天只不諒、人只ト云ルヲ
 ハ、前儒ノ注、母ト母ノ字別ナリトイヘル、字學家ノ說ニ
 拘ハリテ、父母ノ母トセリ、然レモフレニテハ也、天只ト

義通セズ、母也、天只トヨムベシ、コノスチハ、天性ノ通り
 ニテ往バカリトスルナカレト云フニ、邶風ノ俾也、可
 恣ノ也ト同ジ意ニテ、此スチニテハ、恣ル可シト云フニ
 ナラストニナルベシト云フコト、口ナリト知ルベシ、後
 世俗語ニ、也ノ字ヲマタトヨム意ニ用ユルアリ、五朝
 小説ニ、陳氏某性緩ナルモノニテ、何事ニモ己ガ氣ニ入
 ラヌトニアロテモ也、罷也、罷ト云タル故ニ、陳也、罷ト異
 名ヲ付ケタルアリ、フレモマタフレデヤメチヤト云
 タル意モチナリ、齊策ニ、甲單將攻狄、往見魯仲子、仲子曰、
 將軍攻狄、不能下也、トイヘルハ、甲單ハ狄ヲ攻テモ、下ス
 不能ハザルスチニナルベシト、察シテ言タル意モチナ
 リ、史記趙括傳ニ、趙王亦以括、母先言、竟不誅也、ト書ケル
 ハ、トウク誅スルトニ、ナラスヤフノスチニシタリト云
 フナリ、
 此モ語尾ニ用ユル字ニテ、本邦ノ人ノ言語ニ用ユル處
 ニシテイハバ、フレノトコロニト云フ氣味ニ、其意ノマ

馬

ワル文字ナリ。凡ソ事ハ時々刻々ニウツリカワリ往ク
 モノニテ其場処ト云モノモ右ノ事ト同ジク定マリテ
 イツマテモウツラヌ場処ト云モノハ死定シタルモノ
 ヨリ外ニハ無キモノナリ。サレバ日月ノ運行モ東ニ出
 タリトスルガ早クウツリテ天ニ中シ天ニ中シタルガ
 早クウツリテ西ニ入ルモノナルヲバ人ヨリレバラク
 其処ヲ散ケテ東山ノ上トシ正午トシ西山ノアチラト
 シテコレヲ指シ云ニテ人ノ其処ニ見コシテ其ニ向ケ
 テワザヲナシユキ又ハ其ニ思ヲ付クル心アテモ立ツ
 ナリ。文字中ノ馬ノ字モ右ノ如クシバラク其処ヲ設
 ケテ其ヲ指シ定メテ外ノ場処ニ混ゼヌヤフニシテサ
 テ其処ニシテブレヲ思ハセル為ニ置ク意ナリ。
 結集 女即花ウシト見ツ、グ行スグル男山ニシタテリ
 ト思ヘバ此タテリノ下ニ馬ノ字アルベキ語勢ナリ。女
 即花ノ名ニヨリテ女トシテサテ其女カ男山ト云ニ立
 居テ何カ待顔ナレバ我ハブレヲウシト見ナガラ行過

ルト云意ナル故男山ニシタテリ其処ニト場処ヲ指シ
 定メ見コシヲ付テ後ニウシト見ナガラ行過ルト云意
 モチモ付ケテ言テモ其ワケガ聞ユルナリ。
 同集 又レテホス山路ノ菊ノ露ノマニイツカ千年ヲ我
 ハヘニケニ此ケニノ下ニ馬ノ字アルベキ語勢ナリ。菊
 ノ露ノマト云ヲ向フニ立テ置ニブレヲワタル間ニイ
 ツカ千年ヲバ我ハ經タルゾ其処ニト云コ、口ナル故
 ニ馬ノ字アルベキ処ナリト云フナリ。
 同集 山カクス春ノカスミヅウラメシキイツレ都ノサ
 カヒ成ラニ此サカヒト云フ下ニ馬ノ字ノコ、ロモチア
 ルベシ其カスミノ内ニ入リテ見タラニニハ彼処ヨリ
 ノ先キガ都ノ境ト云処ガ其処ニアルベキガ今此望ム
 処ニテハ其処ヲバイツレゾワカレヌトニ見ルナリ
 ト云フ故ニサカヒノ下ニ馬ノ字アルベシト云フコト
 ナリ。

詩唐風ニ獨行踽々豈無他人不如我同父嗟行之人胡不

比馬人無兄弟胡不飲焉トイヘルハ、獨行ノ踴々タル人
 ハ、他人ノ同行スルカ無キト云ニアラザレド、我同父兄
 弟ノ如クニユカ又故ニ、此踴々タルヲスルナリト云ナ
 ラニカ、フレハ大ナル心得相違ナリ、其道ツレト人ヲバ
 何トテ我ヲ兄弟ニ比セザルヤ、其人ニモ兄弟アルベキ
 ニ、何トテツレニヒトシク思ヒクレザルツトイヘト云
 丁ニ云、胡不比焉、胡不飲焉ト云ナリ、衛風ニ、反是不思
 亦己焉哉トイヘルハ、已前ニ共ニ誓タルヲ、其夫ハ今
 ノ行ノツレニ反シタルヲ思ハズトシ怨ニ、サテ又反
 シタルヲ思ハズト思ヒタラバ、我モコレギリニシテ
 其処ニヤノルヲニスルヲニセニカト云ナリ、魯語ニ
 昭公が楚ノ師ヲ出シテ魯ヲ伐ニトイヘルニ、榮成伯が
 對ニ、若得楚師以伐魯、魯既不違、風之取、下也、必用命焉、守
 必固矣、若楚之克魯、諸姬不獲、闕焉、而况君乎トイヘルハ、
 昭公楚ノ師ヲ出スヲ許サレテ、魯ヲ伐給ハ、魯ノ士
 民ハ季孫カ下ヲ取ルサヘ、違乱十ク從タリシトナレハ、

必ス昭公ノ旨ニハ從ハズシテ、季孫ガ命ヲ其処ニ用ヒ
 テ、守ルヲ必ズ固カルベシ、若楚ガ魯ニ克タルニシテハ、
 晋衛等ノ諸ノ姬、氏ノ國ハ、楚ノ取りタル魯ヘ手ザシモ
 ナルマシ、マシテ君ニ魯國ヲワタスアルベキヤト云
 ナリ、齊語ニ、桓公知天下諸侯多與己也、故又大施忠焉
 ト云ルハ、其己ニ與スル心ノアル処ヘ、又大ニ忠ナルシ
 カタヲ施セリト云ナリ、左傳僖二十二年ニ、春伐邾、取
 須句、及其君焉、禮也ト云ルハ、須句ハ國ノ名ナリ、去年邾
 人カ須句ヲ滅シテ、須句子ガ魯ニ來奔シ居タルヲ、此度
 邾ヲ伐テ、其邾ガ取りタル須句ヲ魯ヘ取りテ、サテ來奔
 シテ居タリシ須句子ヲ、其取りタル処ヘカエシタリト
 云ナリ、東周策ニ、君謂景翠曰、公爵為執珪官、為柱國、戰
 而勝、則無加焉矣、不勝、則死、不如背秦、援宜陽ト云ルハ、周
 景ガ東周ノ君ニオシヘテ、楚ノ景翠ガ韓ノ宜陽ヲ秦ヨ
 リ攻ルヲ、救ニ出居レルニ、謂ハスル辭ナリ、爵ハ執珪官
 ハ柱國ニテ、戰而勝タルナラバ、其貴ガ上ニハ、賞ノ加ヘ

方アル一ジト云ナリ。莊子逍遙遊ニ之、人也之、德、持、身、
礪、萬、物、以、為、一、世、斷、乎、亂、孰、故、々、焉、以、天、下、為、事、之、人、也、ト
イヘルハ、サヤフナル人。サヤフナル徳ハ、萬物ヲ一、所ニ
カラゲテ、一世ノ夕ノニ少シハ亂ル、一モアルヤフニ
ト求メイノルホドノナレバ、何故ニ其處ニ滯リ、散々
馬トシテ、天下ヲ以テ己ガツトムベキトスル人、
ンヤト云ナリ。此弊々馬ト云馬ノ字ヲ置ケル意ハ、コ
チヲニ別ニノビテ來ルベキ路アルニ、ソレニヨラスジ
テ、アチヲノ其處ニ弊々馬トシテ、フレヲセニヤト云意
アリテ、馬ノ字ヲ用タルナリ。又覆杯水於坳堂之上、則芥
為之舟、置杯焉則膠、トイヘルハ、杯水ノ少シハカリナル
ヲ、クボミアル堂ノ上ニ覆セバ、芥ハソレガ舟トナレ、
杯ヲバ其處ニ置ケバ、フレナレバ、下ニ引ツク、トナレ
ト云ナリ。コレモフノ杯水ヲクツガヘシタル處、
エ見コマセテ、馬ト云タルナリ。齊物論ニ、南郭子綦隱几
而坐、仰天而噉唾、馬似復其糞、トイヘルハ、其几ニモ夕レ

坐シ、天ニ仰ギテ口ヲアキタル所ガ、何トヤラニアニゴ
リトアルヤフスガ、其處ニアリテ、其對シ居ナタル相手
ヲ、見失ヒタルヤフスニアリタリト云ナリ。世說雅量
ニ、替中散ガ刑ニ臨ミテ、廣陵散ヲ彈ジテ、此曲ハ今ニテ
絶ユト云ヒナドシ夕雅量アリシヲ、當時大學生三千人
ガ命乞ヲセシニ、許サバリシヲ、文王亦尋悔馬ト書ケ
リ。コレモ其許サバリシ其處ノ一ヲ、悔思ワレシト云ナ
ナリ。又支道林ガ還、東時賢並送於征虜亭、蔡子叔前至、坐
近林、公謝萬石後來、坐遠、蔡暫起、謝移就其處、蔡還見、謝在
焉、因合襜、舉謝、擲地、自復坐、ト云シハ、蔡ガ起タル跡へ、謝
ガ移リ來リテ坐シ居タルヲ、蔡還リ、謝ガ其處ニ在ルヲ
見テ、謝ガ坐シタルヲ、其襜ヲ持アゲテ、地へホリツ
ケタルトナリ。

省_ス矣也焉等文字法

凡ソ句下ニアルベキ文字、矣也焉并ニ乎耶ノ類ヲ省ク

ニハ先芽一ニ心得ベキナリ。文字ノ事ヲ知ラザルモ
ノハ、文字ハ唯讀ミテ其物事ノ大畧ヲ識リテ、フレヲ己
ガ心ノ目算ニ通ワシテ、知ルノミナリト思ヘリ。右ノ
如クニ心得タル故ニ、一切ノ矣也焉等ノ字ヲモ、皆コレ
ヲ稱シテ置字トイヒ、唯其飾リニ置クモノノヤフニ思
ヘリ。此大ナル心得ノ相違ナルナリ。右ノ如ク心得タ
ル故ニ、後世ハ餘程スグレタル人モ、書ヲ讀ムニハ、其大
義ヲ領スレバ、足レリト云論ナドヲモ、言出スナリ、
フレヲ一蒙傑ノナスベキ仕カタト思ヒ、フレヨリ細心
ニ書ヲ讀ムヲバ、嘲リテ、文字章句ノ儒ナト言ナシテ、
ナル仕業ノ様ニ謂フモ出来リタルニナレリ。此ハ
全體ノワケニ昧ク、且己ガワザノ所詮左様ノ吟味ニト
トキ難キ故ニ、強テ右ノ如クニ在ゲテ言取リテ、私ノ勝
手ニ自慰シテ言ヘル偏見ノ説ナリト思フベシ。古人ノ
其書置タル文字ガ、左様ニアラクヨシテ聞ユル事ナラ
バ、其無用ノ文字ヲイラヌナリニ置クベキヤフナシ。其無

用ト見ユル文字ヲ、餘計アツメテ組ミ立テ、其内ニ其旨
ヲ寓セルモノナレバ、其ヲノコラス、鮮ホドカザレバ、其
中ニ寓シタル物ハ、取出サレヌ道理ナリ。フレヲ一ニ
鮮ホドクナラ、面働ナルニ思ヒテ、フツポフニテ見テ
取リテ、此ハ大抵此事ヲイヘルナルベシト見取リテ、定
メントスルハ、アテ推ト云モ、ニテ甚タアブナキナリ。
韓非子説難ニ、隣家ノ父ヲ盜賊ハ是人ナラント疑ヒタ
レバ、其人ノスルトコロ言フトコロガ、トカク其盜賊ニ
アタリタルモノ、スルトコロ言トコロナリト、聞ナシ
タルヲ言ヘルナリ。見取リテ定ムルニハ、十ガ五六
ハ、皆此弊アルト思フベシ。サレバ太義ニ通ズルヲ
事トシテ、文字章句ヲ事トセズト云ヘルハ、何モノガ言
タルニモセヨ、身勝手ニカセタルシカタニテ、細ニ思
ハザルノ過ナリト思フベキナリ。サレバ讀書ハ、其言
ヘル物事ヲ識リテ、フレヲ己ガ心ノ目算ニ通ハシテ、知
ルナリト心得ルナリ。甚シキヒガ事ナリ。凡文字ニ書タ

ルハ、並ニ皆當時ノ其言語ノ通りヌ。文字ニウツシ取リ
 タルモノニテ、即言語ノ通りナリ。言語ニハ、ウツレヲ聞人
 ノ心ニ、其言フ物事ノ大小遠近緩急ヲ聞取テセントス
 ルガ為ニ、其語勢ニ或ハ言切リ言ツ、久或ハ外ヘノ久
 或ハ内ニモチ、様々ニシテ、其神氣ノハツミヲウツシテ
 ソレヲ言フニテ、此ハツミバカリニヨリテ、其語意ノ
 聞ユルトコロニ、活ルト死ルトノ差別ヲ生スルナリ。
 下切ノ語助ハ、並ニ此ハ、ツミヲウツス入用ニテ、一字ニ
 テモ語助ヲ加フレバ、緩ミテ外トナリ。省ケハ急ニナリ
 テ内トナル。内トナルトハ、聞ク人ノ心ニツレヲ持テ、今
 其心ノ當面ニツケテ、離レサセズモ、夕サシトスル勢アル
 ナリ。外トナルトハ、當面ヨリハ、下段打コシテ、遠ガカリ
 テ、表則準的ニ立ツル類トナル。譬バ向フニケテ立ル
 ハ、射ノ的ノ如シ。内ニスルハ、弓ト矢ヲ内ノ方ニモチテ
 最中ソレヲ張りテ保チ持ツガ如シ。故ニ凡語下ニ矣若
 也焉アルハ、並ニ其語ヲバ、此ニヨリテ立テ、向フニケ

テ立テ、アトノ意ノ趣クトコロノアテヲトルトコロト
 スルガタメノ用意ナリト思ヒ、助字ナキハ、内ニツレヲ
 專ラニシテ持タス辞ナリト思フヘシ
 論語ニ、賜也始可與言詩、已矣。告諸往而知來者ト云給ル
 此已矣ヨリ上ハ、向フノ標的トシテ、ノケテ立ルコ、ロ
 ナリ。知來者ハ、聞人コレヲ心ニ持テ、其標的ニシテ立タ
 ルトコロヘ、思ヒ合サスル意モチナリ。
 子夏問孝子曰、色難、有事弟子服其勞、有酒食先生饌、曾是
 以為孝乎。此饌ノ下ニ馬ノ字アリテ、ヨキ処ナレト、全体
 ノ語勢ガ、顔色ハイヤニ思ヒナリニ、其勞ニ服シ、先生ニ
 饌スルナドノシカタノアルナリガ、コレマデサヤフ
 ノトヲモ孝トイワル、ト思ヘルカト言給ヒタル意ナ
 ル故ニ、先生饌已上ノ數語ハ、其事ヲ今十分ニフレヲ持
 タセ思ハスル語意ナル故ニ、馬ノ字ハ用ラレズシテ省
 ケルナリ。
 子游問孝子曰、今之孝者、是謂能養、至於犬馬、皆能有養、不

乎

敬何以別乎。此能養ノ下ニ也。ノ字アルベキニ似タル也。ナリ。サレモ能養ト考ト別ナルワケ未ワカレザル故ニ也。ノ字ヲ省ケルナリ。餘ハ此ヲ以テ類推スベシ。

此ハ問ノ辭ニ用ユル字ナリ。乎邪歟ノ類。並ニ皆問ノ辭ニ用ユル類ナルガ。其問ノ意モチニ深淺ノ差別アリ。乎ノ字ハ問ノ意淺キニ用ユ。問ノ内ニ一カマエノ内ヲラアリテソレヘ向フノ引ツキタルヲ内ニモテ云。此内ノ処ニトマルナラズヤト云フキ三十ナリ。意淺ト云ハ此問ノ辭ニテ向フノコタエテ然リト云テ先ツ取リオキテ。サテ其ニツケテ向フガ其筋ニチガヒアルヲ推シ言フカ。又ハ其ナレバ。ナゼニ斯ハセザルブナト云フ辭。アトヨリカケント云。先ツ向フヲ捉フルタメバカリニ問フ意ナル故。淺ト云フナリ。

古今集カゲロフノフレカアラヌカ春雨ノフルヒトナレハ袖ブヌレヌル。此フレカアラヌカノカ。乎ノ字ニアタルベシ。蜻蛉ハ枕緯ナリ。フレカアラヌカトハ。半ハワヌ

レ半ハオホエタルヲ。春雨ノ至テホツクアルカナキカノヤフナルニタトヘテイヘルナリ。フルヒトナレバト云ルハ。雨日トナレバト云フト。人ニフルサレタル人ナレバト云テ。モテラセテイヘルナリ。サレバ。此カノ字ノ意アルカト思フガ。フレナルカ。アラヌト思フガ。フレナルカト。父物ノ外カワノ処バカリヌ。チヨト引カケトリトメテ付ケントスルコ。ロナリ。

同集吹マヨフ野風ヲサムニ秋ハギノウツリモユクカ人ノ心ノトイヘル。ユクカノカ。乎ノ字ナルベシ。秋ハギノト云ルハ。秋ハギノ如クニト云ハ。ニガ如シ。彼ニ思ヒヲカケ。此ニ思ヒヲカケテ。心多ク迷フ故ニ。我ニハ心ガ次第ニハナレテ。ウツリユケルト思フガ。フレナルカトイヘル意ナリ。

又。雲ノヨソニモ人ノ成行カサスガニ目ニハ見ニルモノカラトイヘル。成行カノカモ。乎ノ字ナルベシ。サスガニトハ。サフハ云ツ。ヤハリト云フキ三十ナリ。我

ハ忘レヤラズシテ其人ノ面カケハ我目ニ常ニ見ユル
 モノナリニ其人ノ身ハ天雲ノ下ナクナリユク故ニ
 我ニ遠ザカリテ來ルコトナラザルカ我ハサヤフニ思
 フガフレナルカト云意ナリ此二首ノカノ字ノ餘意ニ
 サヤフナレハ是非モナシト云フ氣味ヲフクメルナリ
 ト知ルベシ
 詩鄭風ニ女曰觀乎士曰既且且往觀乎トイヘルハ其語
 勢右ニイヘルトハ少シカワリアリテ湊泊ノ水ノ景色
 ヲ見物セント思フガサヤフニナルカト女ノイヘルモ
 士ノコトフルニ既ニセリト云フトゾレニハヨラズシ
 テ往キテ見物スルコト云フニ身ヲ以テナルコトアラ
 フカト云氣味ニテ昔ノ淺キ処ハ後世ノ使ヒカト同シ
 ケレト語勢ハ少シ入レコニテイヘリ論語ニ學而時習
 之亦悦乎ト云給ヘルハコレモ亦悦バニナリトハ
 イハレザルカト云フニテ其餘意ニ悦フヘキコト思ハ
 バナゼニ學ベバ悦ブコトアリト思ハザルコト云フニ夕

ノ引カケナリ楚語ニ有一不義猶敗國家今壹五六而
 必欲用之不亦難乎トイヘルハ一ノ不義ノ人ヲ用フル
 ニアリテモ國家ヲヤブルコトナルニ今ハ五六ノ不義ヲ
 一ツニカラゲテ持タル人ヲ必スソレヲ用ニト欲セ
 ンハコレモヤリニクキコト云ナラスヤト云コト口ナ
 リ晉語ニ梗陽人有獄將不勝請納賂於魏獻子獻子將許
 之聞沒謂叔寬曰與子諫乎吾主以不賄聞於諸侯今以梗
 陽之賄殃之不可トイヘル此乎ノ字詩ノ觀乎トイヘル
 手ノ字ニ似タル語勢ニテ與子諫ムルコトニセニト思フ
 ガサヤフニナルベキカト云フ意ナリ齊策ニ孟嘗君出
 記問門下諸客誰習計會能為文收責於薛者乎トイヘル
 ハ孟嘗君ヨリ張り紙ヲ出シテ其紙上ノ文言ニテ問ヘ
 ルニ門下諸客ノ内ニ誰カ算ヲ能クシテ薛ノ民ヘ借シ
 置タル金ノ未入ヲ請取ルコトヲセニモノブト云フ意ニ
 テ此收責ノコトニ誰ト云モノガ此任ニナルデアラフグ
 ト云フコトニテ乎ノ字アリ莊子讓王篇ニ孔子謂顏

回曰。回來。家貧。居卑。胡不仕。平トハ家ハ貧シ。居場処ハ卑
キニ。ナセ仕ヘ又ト云フニナツテアルゾト云給ヘル意
ナリ。世説ニ孫子荆少時欲隱。語王武子。當枕石漱流。誤曰
漱石枕流。王曰。流可枕。石可漱。平ト云ル平ノ字モ流ハ枕
ニスレバナナリ。石モ漱クフニスレバナナルフニハマルカ
ト云フコ。口モチナリ。

耶

此モ多ク問辭ニ用ユレ。凡。全体ハ物ノナリ來リタルヲ
見ルニ付ケテ。其内ウラノヲレニナリ來リサマヲ推シ
テ形容シ言フ辭ツ尾ニ用ユル字ナル故ニ。其時ノ語勢
ノ引ハナシニヨリテ。自カラ問ノ辭ニナレルナリ。
古今集。秋ノ野ノ草ノ袂カ花ス、キホニ出テマ子ク袖ト
見ユラニ。此草ノ袂カノカ。耶ノ字ニアタルナリ。秋ノ
野ノ諸草ノ内ニテノ。袂ト云フニアタルナリ。ナリテ。ア
ノヤフニ見ユルナリ。カト云フキニナリ。
後撰。コリスマノ浦ノ白浪立出テヨルホドモナク歸ル
バカリカ。此バカリカノカモ。耶ノ字ニアタルナリ。ナリ

ズマノ浦ノ白浪ナレバ。折角立出タル。凡。岸邊ニヨルホ
ドモナク。打アガラズシテ。歸ルバカリノ様ニユクナ
ルカト云フナリ。

古今集。心サシ深クツメテ。折ケレバ。消アヘ又雪ノ花ト
ニユルカ。此モ上ニ同シ。志ヲ深クツメテ。折ケレバ。雪ノ
消アヘ又モ。花ト見ユルヤフニユノナリ。カナリ。此ハ
漢ノ李廣カ石ヲ虎ト見テ。矢ヲ射タリシニ。石モ虎ニナ
リテ。矢ヲ飲ミタルニ比シテ。ヨメルナルベシ。

後撰。秋風ノ吹ト立テ。白菊ハ花カアラヌカ。浪ノヨ
スルカ。此モ上ニ同シ。花カアラヌカハ。花乎非耶ナリ。浪
ノヨスルニヨリテ。アノ如クニ見ユルヤフニ往クニ
ナルカト云意ニテ。耶ノ字ナリ。
老子ニ。非以其無私耶。故能成其私。トイヘル。耶ノ字。問ノ
意ニアラズシテ。タ。其奥ノ方ノ來ル筋ヲ付ケテ。言タ
レニテ。其私ナシト云フニユク筋ニアル故ニ。能ク其私
ヲ成セルニ非ズヤト云フナリ。史記趙堯傳ニ。非為趙主。

年少而感夫人與呂后有卻邪備萬歲之後而趙王不能自
 全乎トイヘルモ有卻ト云ヤフナルトニユク筋アルガ
 タメニト云フトニ元問ノ辞ニアラズシテタバ辞ヲオ
 ホロラシテ推シタルヲアレナリニ立テ言タルニシ
 テ置タル字ナリ易繫辭傳ニ乾坤其易之經邪又云乾坤
 其易之門邪ト云ルモ邪揣ヲ以テアテ言タルコ、ロ
 モ千ナリ乾坤ノ二卦ノ内ニハ自カラ坤乾ノ象コモリ
 タル故ニ易之經メルト云筋ニナルトカ易ノ出クル門
 ニナルト云筋ニユクトカナリ莊子逍遙遊ニ野馬也塵
 埃也生物之以息相吹也天之蒼々其正色邪其遠而無所
 至極邪其視下亦若是則已矣トイヘルハ野馬塵埃ノ類
 ノ此地面ノ上ニ動キテ息ガハ天地間ニアル生物ノ
 息ヲ以テ相吹バナリ相吹ガレバ塵埃ノ如キモノ滿ア
 ルトアリ天ノ蒼々ト見ユルハ正色ナリト云フニナル
 トカ遠而至極スル所ナシト云トニナルトカ其至高ノ
 處ヨリ下ヲ視タルモ亦蒼々ト見ユベシトセハ先ヅソ

歟

レニテヨイト云トナリ左傳ノ中ニハ耶ヲ用タル処々
 夕一處アルカ事覺ニ國語ニハ全ク見ヘズ畢竟紀事マ
 テニテ邪揣ノ辞ノ如キ入コミタル語勢ハ書クトニ及
 バ又故ナルベシ
 此ハ其中ノ實ヲ推シ定メントスル意ニテ問フ辞ニ用
 ヲル字ナリ半ハ推シ定メタル意ニテ次ノ語ニ直ニク
 レニ極ノ置テ言フ辞ニモカ、ルトアリ本邦ノ古語此
 ニ類セルアレモ少シ輕ク使ヘリ
 古今集 天ノ原フリサケ見レハ春日ナル三笠ノ山ニ出シ
 月カモ此カモノカ歟ノ字ノ昔ト同ジトニテ少シ輕シ
 三笠山ニ出シ月ト云トニナルトニアタルカナリ
 幾許ノ田ヲツクレバカ郭公シテノ田長ヲ朝ナク
 ヲブ此ツクレバカノカ歟ノ字ノ昔ト同ジトニテ輕シ
 後拾遺ニテトイヒシ秋モ半ニナル又ルヲタノメカ置シ
 露ハイガニズ此ハ待テトイヘモ聞ヌ顔ニテ秋モ半ニ
 ナリ又ルニ此方ヨリタノ三タルトモナキ露ハ何ノ夕

ナリト云フヲ知ラサリキト云フナリ。齊策ニ老子ノ文ヲ引テ曰。雖貴必以賤為本。雖高必以下為基。是以侯王稱孤寡不穀。是其賤之本。與非夫トイヘリ。今ノ老子ノ文ニハ。自謂孤寡不穀。此其以賤為本耶。非乎トアリ。齊策ノ文ノ意ニテハ。是ヤフニアルハ。其意ニ賤ヲ本トセルニナルトニナルニアタルトナルカ。是説ハ非ナルトニアタルカト云フトナル。今ノ老子ノ文ノ意ニテハ。自カラ右ヤフニ言成セル此意ハ。其旨ニ賤ヲ以テ本トセルニアタルトニナリテタルトカ。フウデハナキトカト云キ三十ナリ。齊策ノ文ノ通リニテハ。貴ヲ賤ノ本トスルトニ人ヨリ引取リテ見ルトニシテ言ヘルナリ。今ノ老子ノ文ニテハ。其自稱ノ意ノオコリヲ推シテ思ワス意持トリ。齊策此下ニ。孤寡者人之困賤下位也。而侯王以自謂。豈非下人而尊貴士與トイヘルモ。人ニ下リテ士ヲ尊貴ニスルト云フニ非ズト云フニナルニナリアタルカト云フナリ。後世ノ文ニモ推シズイニシテイフニ用ユ。史記

夫

曹相國世家ニ。惠帝恠相國不治事。以為豈少朕與トイヘルモ。曹ガアノヤフニアルハ。朕ヲ少キ故ニ。目モキカ又故ニ。事ヲツトムルニモ足ラズト云コ。口モチニテ。アノ如クニナルトニナルニアタルカト云フニテ。即チ推シズイノ未決ノ辞ナリ。宋ノ蘇軾ガ龜錯論ニ。其中程ニテハ。錯カ誅セラレタルワケヲ。已欲求其名。安所逃其患ト云オキテ。結尾ニ至テハ。錯之所以自全者。乃其所以自禍與ト書ケリ。始ノハ蘇ハ其ワケヲ十分ニ知り居ル言カタニテ。其ツマリ処ニテ。此未決ノ辞ニセルハ。文理ノワラヌ書カタニテ。畢竟與ノ字ヲ用タルモ。唯古人ノ口真似ニテ。拍子ノ三ニテ書テ。其實ハ古人ノ辞意ニ味チ故ナリ。唐宋已後ハ。名賢ノ文ニモ。此類甚多シ。サレバ古文ニ似セザル文ニハ。蘇ト雖モ書ヌトナリ。要スルニ唐宋已後ノ文ハ。皆法トスルニ足ラヌト多シト心得ル。此モ語尾ニ用ユル夫字ニテ。疑辞若ハ歎辞ニ用ユ。此字意本其物ガラヌ。其已前ノ此方ノ場処ヨリ。違ナル向フ

ノ先ニ立チアルニシテソレニアテ、思フニシタル
 コ、ロモチニ用ユルナリ。
 古今集 老又トテナドカ我身ヲセメキケニ老ズハ今日ニ
 アハマシモノカ。此モノカノカノ字。夫ノ字ニアタルベ
 シ。今日ノ場処ヨリ。已前ノ場処ニテノ向フノ内ニ立ア
 ルモノニシテ。其ニアテ、思ワスルニシテ云ルナリ
 古集 我袖ニマタキ時雨ノフリ又ルハ君ガ心ニ秋ヤキ
 又ラニ。此又ラニノ下ニ。夫ノ字ノアル氣味ナリ。耶ノ字
 ノ向ノ内ニテノナリテ來ガマヲ推シ言フトハ。少シカ
 ワリテ。向フノ内ニスワリタル処ヲ。アテ、言フキミナ
 リ。耶ハ動キ。夫ハ靜ナリト心得ヘシ。
 禮檀弓ニ。魯人有朝祥而暮歌者。子路笑之。夫子曰。由爾責
 於人終無已。夫三年之喪亦已久矣。夫トアル。此上下ノ夫
 ノ字。上ノ一ツハ子路ガ心根ノ立カタニアテ、指シ下
 ノ一ツハツレヲ向フノ心ノ立カタトシテ。指シ思ワセ
 給ヘル心持ナリ。晉語ニ。靡笄之役。郤獻子見公曰。子之力

也。夫トイヘルハ。靡笄ノ合戰ニ。晉ノ軍勝ニナリテ歸リ
 テ。郤獻子ガ晉公ニ見ヘシニ。子ガカニヨリテナルカ
 ノコトハト云フニ。乃チ靡笄ノ勝ノ様子アリシヌ
 向フニ立アルニシテ。ソレニアテ、サシテ夫ト云ルナ
 リ。莊子逍遙遊ニ。今子有五石之瓠。何不慮以為大樽而浮
 乎江湖。而憂其瓠落無所容。則夫子猶有蓬之心也。夫トイ
 ヘル。其サマヲ其心ノ内ニアルニシテ思ヒテ。指スコ、
 口ナリ。太宗師ニ。天無私覆。地無私載。天地豈私負我哉。求
 其為之者。而不得也。然而至此。極者命也。夫ト云ル。天地ニ
 私ノ覆載ナキカラハ。私ニ我ヲ負フスベケンヤ。其私ニ
 スルヲスルモノヲ求メテモ得ヌト云ホドノナリ
 ベシ。シカルニ我此貪ノ極ニ至レルハ。命也ト云フニ
 アタルカ。其アチラノ内ニアルニテ。コチラニサヤ
 フニナルナラニト云コ、口ナリ。後世ノ文。此夫字ヲ
 歎辭疑辭ニ使フハ。率皆古語ノ語勢ニ似ヨリタル處
 ニテモ。用ユルアレ氏。常トシテ用ユルハ。多ク見ヘ

哉

此モ歎辭ニ用ユル字ナレモ、乎夫等ヨリハ、其意味コミ
 入リタルキミアルナリ、其故ハ大抵人ノ物事ヲ取ア
 ツカフ道ノアルトコロニ、常量ノ度アルモノナルガ、
 其物若事ノ、其常量ノツモリノ外ヘハ、ツレ往クナ
 リユクナアルニハ、並ニ此哉ノ字ヲ着ケテ言フヲ辭
 トスルナリ。

古今集 アカナクニマダキモ月ノカクル、カ山ノ端ニゲ
 テ入レズモアラナシ、此カノ字、哉ニアタルベシ、マダ入
 ルマジキト思フ、常量ノ外ヘハ、ツレ往クナリテ、カ
 クルカイト云フキナリ。

古今集 アナ戀シ今モ見テシカ山カツノ垣ホニサケルヤ
 マトオデシコ、此見テシカノカ、哉ニアタルベシ、戀シト
 思フアマリガ、ナリナルナガ、今モ見タシト思フコ
 コロニナリ往クナリテユクワイト云フキナリ
 檀弓ニ、子思ノ母ヲ葬ントセラレシニ、柳若謂子思曰、子

聖人之後也、四方於子、子觀禮、子蓋慎、諸子思曰、吾何慎哉
 トイヘル哉、字ハ、抑若ガ慎メトイヘル心アタリノ、子
 思ノ覺悟ノ度量ノ外ニナリ往キタルヲ、推シテ尋問ワ
 ル、意持ナリ、又云、子蒲率、哭者呼、滅子、臯曰、若是野哉、哭
 者改之、トイヘル哉ノ字、易ニ大哉乾元、至哉坤元、又ハ論
 語ニ、善哉問、檀弓ニ、美哉輪、ナド云ルト同ジ意持ニテ、並
 ニ世間ノ野ナリト云フニアタルナリテユカフカ
 イ、大ト云フニアタルナリテユカフカイト云フ
 ニテ、コレモ自分ノ極メ言フニハ、打コシテ、オ、ヤケ
 ノ言ニシテ、推アテ、イヘルコ、ロナリ、檀弓ニ、人豈有
 非之者哉、ハ、世ノ人ノ見ル処ニテモ、此事ノケ様ニア
 ニ、ソレヲ非トスルモノ有リト云ヤフナルハ、ハ、ツレ
 テユカフカイ、往マジト云フナリ、又成子高ガ吾縱生
 無益於人、吾可以死、害於人、乎哉、ハ、コレニテハ、死ヲ以テ
 人ニ害アルナセラル、ハト云ヤフナルハ、死ヲ以テ
 付クルナリ、往カフカイト云フニナリ、乎ハト云ヤフナ

ルト云フコニテ此字ノ字ハ上ノ可ノ字ニテニ屬シ
 哉ハ吾ノ字ヨリカ、ル意持ナリ上ニ引タル子路朝祥
 暮歌ノ人ヲ笑ヘルヲ夫子ノトガノ給ヘル辞ノアトニ
 子路出夫子曰又多乎哉踰月則善也ト云タマヘルハ三
 年ノ喪ノ上ニ又多日コラヘヨト云ヤフナルコニユカ
 フカイ月ヲマダゲタラバ善カラニト云タマヘル乎
 哉モ同ジコ、ロモ千ナリ晋語ニ厲公ノ鄭ヲ伐ニトセ
 シテ范文子ハ欲セズシテ諸侯カツク故ニ晋ニ憂多シ
 ト云タリシニ郤至曰然則王者多憂乎文子曰我王者也
 乎哉夫王者成其德而遠人以其方賄歸之故無憂今我寡
 德而求王者之功故多憂トイヘル此我王者也乎哉ハ我
 ハ王者也ト云ヤフナルコニ往カフト思ヘルカイヅレ
 ハ郤カ心得ノ相違ナリト云フキニテ此ノ如クニイ
 ヘルナリ、莊子逍遙遊ニ今子有大樹患其無用何不樹之
 於無何有之郷ト云ヘル下ニ不夭斤斧物無害者無所可
 用安所困苦哉トイヘルハ左様ニモアリタラバトコラ

ニ困苦スルトコロト云コガアルコニ往カフゾイト云
 コナリ、齊物論ニ雖有神異且不能知吾獨且奈何哉トイ
 ヘルモ神禹ガアリテモ知ルコ能ハジト云ホドノコナ
 ルニ吾獨衆ニヌケテモ、マアナントシテ知ルコニユカ
 フゾイナリ、齊策ニ若乃得去不肖者而為賢者狗豈特攫
 其腓而噬之耳哉トイヘルハ不肖ナル者ヲノキテ賢者
 ニカハル、狗トナルコヲ得ラル、ナラバ左様ニアル
 ニハ其腓ヲツカニテ、フレヲカニツクガ、其スチナリト
 云ギリニユカフカイト云フコニテ其ツモリガ、其外ヘ
 モ出ルコヲツモリニシテ、其外ヘ出ヌガツモリノ外ト
 ナル故ニ、亦哉ノ字ヲ以テコレヲイヘルナリ、論語ニ、觚
 不觚、觚哉觚哉ト云タマヘル哉モ、サナケレバナラヌコ
 ニ極マリタルコガ、外ニナリテ往クヲ云フ氣味ニ以テ
 觚哉ナリ、即子觚ト称スルコニ叶フニ往カフカイト云
 コ、コナリ、左傳哀六年ニ諾哉トイヘル語アリ、此モイ
 カニモトウケ合レヌコナレ、先ヅイカニモ心得タリ

一ニシテオコフカイト云フキニナリ。唐宋已後ノ
文ニ用ユルモ、皆此心ニテ用ユルナリ故ニ、例ヲ引ニ
及ハズ、又乎ノ字哉ニ似タル使ヒ方、古文ニ間多シ乎ノ
字ハ、前ニモ言ル如ク、ソレヲ言フ辞ノ内ニ、其象ノ所ア
ル故ニ、ソレヲ見セテ、イカニモ其通りナリト云答辞ヲ
取ル意ニ用ユレバ、問辞トナリ、唯、其事物ノ象ヲ、人ノ意
想ノ前ニオシ立テ言フバカリナレバ、哉ニ似タル氣味
トナルトナリト心得ベシ。論語ニ、煥乎其有文章トハ、煥
タリト稱スルトニアタル様子ニテト云トナリ、魏々乎
唯天為大モ、巍々タリト稱スルトニアタル様子ニテト
云トナリ、莊子讓王篇ニ、越人三、世其君ヲ弑シタルニヨ
リテ、王ノ子ノ搜コレヲ患テ、丹穴ト云処ニ逃レタリシ
ヲサガレ出シテ、ムリニ衆スルニ、王ノ輿ヲ以テセシニ、
王子搜仰天而咤曰、君乎君乎、獨不可以舍我乎、トイヘル
ハ、ヤハリ問辞ノコ、ロニテ、我ヲモ亦弑スルトコロノ
君トスルヲト云フコ、ロナリ、孟子ニ、孔子ノ流水ヲ觀

ルニ、歎ジテ水哉水哉トイヒ給ヘリト云ルニテ、乎哉ノ
別ヲ思ヒ知ルベシ。詩齊風ニ、俟我於著乎而充耳以素乎
而尚之、以瓊華乎而トアル乎而ノコ、ロハ、我ヲ著ノ処
ニ俟テ居レリト云トナリタラバ、而字ナリフレニハト云コ、
ロナリ、瓊華ノ下ノ乎而ハ、上ノ於著ノ下ノ乎而ヲコ、
ヘ引ツケテ思ヒ合サセニトシテ、置キタルモノナリ、莊
子逍遙遊ニ、歸休乎君ハ、休美ヲ君ニ歸スルトテアラフ
ト云トナリ、此乎ヲカナト讀ムハ、誤リナリ、史記趙世家
ニ、王夢見處女鼓琴而歌曰、美人熒々、顏若苕之華、命乎命
乎、曾無我贏、トイヘルハ、命ト云ガ此事デアラフト云コ
、ロナリ、曾無我贏トハ、向ニ我ヲバ、スグレタリトスル
モノガナシト云トナリ、左傳ニ、南蒯ガ郷人ニ酒ヲ飲シ
メタルニ、郷人或歌曰、已乎已乎、非吾黨之士乎、トイヘル
ハ、モハヤコレギリニテヤメテシマフトデアラス、吾黨
ノ士ト云モノト云フニハ、筋ノ違フトト云トデアラフ
ト云トナリ、論語ニ、孔子ノ蘧伯玉ガ使者ノ對ノ善ナル

ヲホメテ、使乎使乎ト云ルハ、使者ト云ハ、此人ノトテア
ラフト云給ヘルコ、ロモ子ナリ、又春秋ノ時ノ人語ニ
人名ヲ呼ブニ、此乎ノ字ヲフケテイヘルアリ、後世ノ人
ハ、ヤハリ其コロノ語ニ、人名ノ下ニ也ノ字ヲ置キタル
ト、同シヤフナルトニ心得ヘテ、差別ヲツケテ讀ザルハ、
疎ナルトナリ、譬バ論語ニ、田也、参也、ナドアルハ、衆門人
ノ中ニテ、孔子ヨリ其人ノ内ツラバカリヲ引分ケ立テ
呼ヒタマヒタル意ナリ、其人ノ自稱ニ田也、賜也、ナド云
ルモ同意ナリ、参乎吾道一以貫之ト云給ヒシハ、本ハ参
吾道一以貫之乎ノ意持ナレ、下ニアレバ、全ク問ノ辞
トナリ、上ヘ引舉レバ、参吾言フトコロヲ、其方ガ身ニ
トリテハ、トクト聴クトテアラフト云タマヘルコ、ロ
ナリ、晋語ニ、郤献子が齊ニ聘シ、婦人ニ笑ワレタルヲ怒
リ、歸リテ齊ヲ伐ニトヲ請タリシトキ、范武子退自朝曰、
燮乎吾聞之、干人之怒、必獲毒焉、夫郤子之怒甚矣、不逞於
齊、必獲諸晋國、不得政、何以逞怒、余將致政焉、以成其怒、無

以內、易外也、爾勉從、二三子以承君命、唯敬乃老トアリ、此
ハ范武子ガ其子ノ文子名燮ニ、郤至ガ怒ヲヨクアシテ、
ハガレバ、事ニヨリテハ、却テ晋國ノ乱トナラニトヲ恐
レテ致仕ヲスル故ヲ語り、尚亦范文子モ、其心得ニテ、郤
子ニ觸ル、トナクシテ、朝ニ仕フル様ニト言聞ス、トナ
ル故ニ、文子ガ身ニ取りテ、トクト聴分ケテ心得ヘキ、
故ニ、最初ニ燮乎ト呼カケタルナリ、又嘗、拓ガ死セシニ、
范宣子ガ其子献子名鞅ニ謂テ曰、鞅乎、昔者吾有嘗、拓也、
吾朝夕顧焉、以相晋國、且為吾家、今吾觀女、也專、則不能謀、
則無與將若之、何トイヘルモ、献子ガ身ニ取りテ、ノ大切
ナルトニテ、思案工夫ヲ付クベキトヲ、相談ニ及バン、ト
スル語ナル故ニ、最初ニ鞅乎ト呼カケタルナリ、参乎モ、
魯子ノ大切ナルトトシ、聴ベキヲ以テ、乎ト云玉ヘルナリ、
ヤリ亦己乎ナド云ル乎ノ字ノ意持ナリ、莊子人間世ニ、
禍重乎地、莫之知避、己乎己乎、臨人以德、殆乎殆乎、トイヘ
ルモ、禍ハ來リテハ、地ヨリ重クシテ、載セガタカルベキ

ニ孔子ハフレヲ避ルヲ知リ給フ出来マシケレバ
ヨキクヲ井ニ左様ノヲヤメルヲデアラフクト云ク
ルガ已手已手ナリ人ノ上ニノリカ、ルニ已ガ徳ヲ以
テセントセルハ、アブナキヲデアラフクト云タルガ、殆
乎殆乎ナリ詩秦風ニ於我乎夏屋渠々今也每食無餘于
嗟乎不承權輿トイヘル於我乎ハ彼ヨリ我へアシラフ
アタリデアラフナレバ夏屋渠々タルヲ以テスベキハ
ヅナルニ今ニテハ食ゴトニ餘ナキヤナルヲ以テア
シラヘリト思ハ、ゴ、ハカヤフニハアルマシキト云
フ思ニアタルヲナリ彼ガ最初ノ様子ニ承ケテ事ヲ取
リアツカワサルヲト云フガ即于嗟乎ナリ大雅抑蕩
ニ於乎小子未知臧否匪手攜之言示之事ナトイヘルハ
コ、ニテハ小子ニテ未知臧否ト云凡、心ヲ付クベキ
ナルベシト云フ氣味ニテ於乎トイヘルナリ下ノ於乎
小子告爾奮止トイヘルモ同ジキ三ナリ周頌ニ於乎不
顯文王之徳之純假以溢我我其収之トイヘルモ同シ

コロニテコ、ニテハ、丈王ノ徳ノ純ナルヲ大ニイタリ
テ我ノ方へアフレ來レルト云モノナルヲハ我ニハ其
ニフレヲトリ入レテ已ガ有トセント思フベキナリ
ト云フナリ、関予小子ノ於乎皇考モ同ジナリ、訪落
ノ章ノ於乎悠哉朕未有父トイヘルハ、コ、ノ處ニテカ
ヤフニモ思フナルベシト云コ、ロナリ、總ジテ歎辭
ニ用ユル嗟呼嗚呼ノ呼ノ字並ニ乎ト同音ニテ、ヤハリ
乎ノ字ノ意ナリトカク其辭意ニ其処ヲ一場処トシテ
其辭旨ヲ一ハナ立タルトニシテ、其処ニ別ニ心ヲカ
エテ持ツコ、ロアルニマワル時ハ、並ニ呼ノ字ヲ加フ
ルナリ、下ノ辭意別ニ二段ニ切ル、トナク其辭意ノツ
ヅキナリナルニハ、嗟ノ字バカリニシテ言フナリ、夕
トへハ、禮擅弓ニ、黔敖為食於路以待餓者食之ニ、餓者ア
リテ來リタルニ、黔敖左奉食右執飲曰嗟來食トイヘル
如キハ、今眼前ノ餓タル境界ヲ已ガ食ヲ施ス場合ノ各
段ナルニ引取リテ思ワスコ、ロニテ、嗟トノ三イヘル

諸

ナリ。史記孟軻傳ニ、嗟呼利誠亂之始也トイヘルハ、古今トモニ、利ヲ争フヨリ、亂ノ起ルヲ別ニ心アタリニ、其始終ヲ持テ居テ、サテ歎ジタルコ、ロニテ、呼ノ字ヲソエテイヘルモノナリ。

此字春秋ノ頃ノ語助ニ用タルト間見ユ、後世ニハ絶テ用ユルコトナシ。字書ニ諸ハ之ノ合音ナリト云ルアレド、乎ハ眞韻ニ屬シテ、諸ノ韻屬ト少シク異ナレバ、之於合音ノ意ニ見ルベシ。譯シテ言ヘバ、ツレヲ其方ニナシユクト云意アルニ用ユ。

古今集夏ノ夜ノフスカトスレハ郭公鳴一聲ニアクルシノ、ノ、諸ノ字ノ使ヒ処ト云フニ非ザレド、使ヒ方ノ氣味合ノ似タル処ナル故ニ、此ヲコ、ニ出セリト心得ベシ。夏ノ夜ノフスヤフノ方ニナシユクカトスレバト云コ、ロナル故ニ、漢土ノ語ノ末ニ用タルモ、此ヤフナル処ニ用ユト云フコトヲ、コレニテ悟ルベシ。

詩邶風ニ日居月諸、胡迭而微ト云ルハ、人心ノ中ニ正シ

旃

キ心ノ心ニウツルヲ譬ハ日輪トスルニアタルコトガアルガ、憂フルコトヲ月輪ト云方ニナシユキテ、夕トヘンカト云ハ、ツレニ答ヘテ、日月ハ夕ガヒニ目ニカ、ラ又モノニナルモノナリ。心ノ正シキ憂フルトニハ、左様ノコトナキニ、ナゼフレニ喩フルコト言フベシト云フナリ。論語ニ、子貢曰、有美玉斯韞櫃而藏、諸善賈ヲ求メテ沽諸ト問レタリシハ、藏ト云方ニセニカ。沽ト云方ニセニカト云シ意ナリ。子禽ガ問ニ、子貢ノ答テ、其諸異乎人之求之與トイヘル諸ノ字モ同ジ意モチナレド、先ヅ子禽ガ心得ヲ早ク引マハシ思セントスル意得ニ、語末ニアルベキヲ先ヅ上ヘ引上ゲテ、其ハ此方ノコトニシテ心得ルコトデアラフト言フコ、ロニテ、其諸トイヘルナリ。左傳ニ、語末ニ諸乎ト使ヒタル例間見ユ。ヤハリフノ方ニシテ行クコトニスルコトデアラフカト云フキコトナリ。之ヲ合音ニテ旃ト云、此モ後世ニハ用ユルコトナシ。譯シテイヘバ、ツレヲフニシヨフフレニシヨウ、其処ニテ

之

ト云コ、ロニ用ユ。詩唐風ニ、人之為言、苟亦無信、舍旃、舍旃、トイヘルハ、ブレヲブレナリニ聞舍ニシヨフ、其処ニト云コ、ロナリ、魏風ニ、上慎旃、哉猶來無止、ト云ルモ、フノ上ニモブレヲ慎ムヤフニスルヲ、其処ニセニ、アデアラフカイト云フキナリ。

此字ヲノトヨム處ニ用ユルコトアリ、コレヲトヨム處ニ用ユルコトアリ、全体ノ此字意、聞人ノブレヲ其意ニ持チ居ル處ニツキテ、ヤハリ其物ノニツキテノ先ヲ指シ、イフ意ニスレバ、ノナリ、ツノ聞タル人ノ意ニ持チ居ル處ノ物、若クハ事ヲ指シテ、イヘハ、コレナリ、サレバコレトヨムコト、本明白ナラザル訓ナリ、ブレト云コ、ロナリト心得ベシ、論語ニ、學而時習之、ハ、學ビタル處ノブレヲ習フナリ、子禽ガ求之、與抑與之、與、トイヘルモ、其是邦ニ至ルトスルニハ、必ズ其政ノトヲ、其國君大夫ガ孔子ノ耳ニ入ルハ、トニスルコトヲ指シテ、之ト云タルナリ、詩周南ニ、參差荇菜、左右流之、トイヘル之ハ、左右ヲ指シ、窈窕

淑女寤寐、求之、之ハ、寤寐ヲ指スコトニナルコトナリ、其故ハ、之ノ字右ニ云タル如ク、聞人ノ意ニモチタル所ノ物事ヲ指スコトナルガ、今手ノトヲ、左モ右モト指シ、精神ノアルトコロヲ、寤寐モト指シ言ヘハ、聞人ノコ、ロ、其左ト右ト寤寐ト寐トヲモフニ滞ルヲ、其滞ル處ノ當面ノモノヲ指スコトニナルコト、自然ノ勢ナル故ニ、流之ノ之ハ、左右ノ、求之ノ之ハ、寤寐ナリト云コトニアルナリ、古文ニ其物ヲ上ニ言タルニヨリテ、下ニ之ノ字ヲ用テ、ブレト指シタルモノハ、常例ニテ、人ノ多ク見及ビタルコトナリ、又物ヲ下ニ言フベキニヨリテ、上ニ先ヅブレヲ指シテ、之ノ字ヲ用タルコトアリ、論語ニ、道之以政、齊之以刑、民免而無恥、ト云ル如キハ、之ト指セルモノ、即チ下ニ云ル民ノ行ヲ指シテ、イヘルナリ、又物ヲ擧ゲ言ハザレトモ、其語勢ニテ、其物自カラ知ラルベキ故ニ、其物ヲ始終言ハザルアリ、孟子ニ、江漢以濯之、秋陽以曝之、皓々乎莫能加焉、トイヘルハ、有若ヲバ、或人孔子ニ似タリトシテ、師ト

セニト言タリシヲ中々及モ付カヌト言フヲ又、質ノア
 シキ布又、幾ヘニ水ヲカケテ炎日ニサラシテモ、全体ノ
 質ガ相違ナル故ニ、所詮ヨキ布ノ白キニハ及バレザル
 一ヲ喻ニ取リテ言ルモノニテ之ト云ハ其質ノアシキ
 布ヲサシテ言ヘルナリ、又之ヲ疊ミテイフニ、累倍ト云
 一アリ、江漢以濯之、秋陽以曝之ト之ノ字ヲ疊ムトキハ
 曬之ノ之ノ字濯タル其布ヲ指ス一ニナル一ナリ、易乾
 文言君子學以聚之、問以辨之、寬以居之、仁以行之モ、其聚
 メタルヲ辨シ、辨シタルニ居リ、居ルトコロノ一ヲ行ニ
 スル一ナリ、次第ニ累ルニツケテ其物が段々ニ倍スル
 故ニ、累倍法ト名付タルナリ、又其上ニツゞケ言タル処
 ニテ、直ニ指シ言フ一アリ、論語ニ吾是之未能信トイヘ
 ルハ、是ニスル一ヲバト云一ニテ、即チ仕ヘテ其言ヲ出
 シテ、用ヒラルトコロノ目當ニセラル辞ノ通りヲバ、後
 マデフレニ違ハヌヤフニ行フ一ヲ、未ダ能セズト云一
 ナリ、中庸ニ天命之謂性、率性之謂道トイヘルモ之謂ト

書云之字ヲ謂ノ上ニ置ケルハ、之ノ字ノ上活動トナル
 一ナリ、天命之謂トアレバ、天命ノトオリニナシユクヲ
 バ、性ト謂フト云一ナリ、下モ性ニスル一ニ率フヤフニ
 ナシユクヲバ、道ト謂フト云一ナリ、易繫辭傳ニ富有之
 謂大業、日新之謂盛徳ナト、並ニ同ジ、闔戸謂之坤、闔戸謂
 之、乾ナドノ謂之トアルハ、謂字ノ上、並ニ靜定シテアル
 物ノ、其名目ヲ明シタルナリ、之謂ノ上ノ活動シタルト
 同様ナリト思フベカラズ、其他列女傳ナドニ、詩曰、云云
 ハ、其是之謂子ナドイヘルモ、是ヤフナル一ニイワレフ
 カト云一ナリ、楚辭ニ、樹蘭之九畹、兮トアルモ、蘭之ハ蘭
 ヲバト云一ナリ、史記陳涉世家ニ、輟耕之隴上トアル耕
 之モ、耕一ヲバト云一ナリ、張儀傳ニ、入張儀之楚ト云ル
 張儀之モ、張儀ヲバト云一ナリ、ゴレモ其楚ヨリ念ヲカ
 ケタル張儀ヲバト云ヒ、庸人ノスルワザノ耕ス一ヲバ
 ト云モ、香氣ノスグレタル蘭ヲバト云コ、口ニテ、思入
 レノアル品ニハ、皆右ノ如クニ書ク一ニテ、ヤハリ之上

動活ト同シ意味ナリ。又此之字ヲ中ニ挾ムト、下ニ置ト
ノ差別アルヲナリ。易遯卦六二ニ、執之用黄牛之革、莫之
勝説トイヘル。即チ中ニ挾メルナリ。又トヘバ莫勝説之
ト書キテモ、事ハ同シトナレ。凡テ勢ニ叶フト叶ハザル
トノ差別アリ。又下ニ書クベキヲ中ニ挾ムトニシ書キ
テモ、其上ノ文勢ニ叶フト叶ハザルトニナルト、同ジト
ナリ。如此文勢ノ宜不_レ宜ヲ先ヅ述ク喻サントナラバ、知
己ト云ハ、朋友ノ己カトヲ能ク知リタルヲ云トナレ。凡
彼カ知ルトガ、己ニハ各別ナリト云トニ成。彼ヲ主トシテ
云トニナルトナリ。己ヲ主トシテ云トニナル。左傳僖廿八年ニ
ト云トニナリ。己ヲ主トシテ云トニナル。左傳僖廿八年ニ
晋文公楚ニ子反ヲ殺セルトヲ聞キ喜ヒテ、莫余毒也。己
トイヘルガ如キハ、子反カ目ガス敵ハ、晋ノ文公ナレバ
其目ガストコロニアタリタル余ニ、ヒドキトヲ以テア
タルトガ、此己後ハ出テ來ルトアルマシト云ルキミナ
リ。トカク右ノ如ク、當面ニアタリテアルトヲ指スニハ、

莫之勝説莫余毒ノ如クニ、中ニ挾ミテ書クベキトナリ。
當面ニアタルトニナリアタラスシテ、語ル人ノ心ニノ
ミ知レルトヲ拈出シテ、言キカス語勢ノトキハ、下ニ置
クトニシ書ベキトナリ。サレバ後世ノ文ニハ、古文ノ體
ノミヲ倣ヒテ書クバカリニテ、語勢ノ活動ノ機マテニ
通ジタル文士寡ナキニヤ。カヤフニ中ニ挾ミテ書ケル
ト、甚タ少キトニナリタリ。又此之字ヲトヨムノ用ヒ
方ニモ、心得ベキトアリ。總別本邦ノ人物事ヲ語ルニ、ノ
ノ字ヲ言フト甚タ多キ故ニ、西土ノ文字中ニ之字ヲ用
ベキト、用ユベカラザルトノ差別。至ツテ微細ノトナ
リテ、紛レ失ヒ易キトナレリ。又トヘバ本邦ノ語ニテ
表ノ門ノ屋根ノ内ノ東ノハシヨリ西ヘ五枚目ノ瓦ナ
ト云フニ、ノノ字ヲ六ツモ重子テ言フトナルガ、西土ノ
文字ニコレヲ書クハ、前門屋上自東第五之瓦ト書クト
ニテ、之字ハ只一字ヲ最後ノ字ノ上ニ用ヒテ聞カスト
ナリ。此ハ前門ト云ヨリ屋上ト云マテモ、並ニ物ニ付キ

テフレヲ指スニ非スジテ聞人ノ心ニ覺ユ居ル処ノ前
 門屋上ヲ呼ビ出シ其心ニウカマシ置キテサテ其自東
 第五ト指ス処へ其心ヲバ持チコマセテサテ其瓦トシ
 テ指ス故ニ之字ヲ一ツ用ユルトニテ之字多カラガ
 故ニ心ノ持コムベキスチガスワルトニナリテ紛レ又
 トトナルトナリ凡フ之字ヲ用ユルノ大意ハ右ヲ以テ
 推シテ其他ヲ例知スベシ故ニ之字ノ文中ニアルハ
 トヘバ山路ヲ行ク人ノタメニ先へ行キコシタルモノ
 ガアトヨリ來ル人ノ為ニ技折ヲ付ケテシルトスル
 が如キモノナリト思フベシ一スチバカリニ技折ヲ付
 ケズシテ四方ニ付ケテハ却テ迷ヲ重ヌル種トナリ
 サレ凡古文ニ又之字ヲ疊用シタルアリ禮檀弓ニ南宮
 縉之妻之姑之喪夫子誨之鬢ト書ケルが如キハ深キ子
 細アル故ノトナリ其故ハ南宮縉之妻トイヘルハ即チ
 論語ニイヘル処ノ夫子以其兄之子妻之トアル孔子ノ
 兄ノ女ノトニテ孔子ノ為ニハ姪女ナル故ニ孔子コレ

ニ整ノ禮ヲ誨ヘタマヘルナリ作者此ワケヲ聞サント
 テ南宮縉之妻トカケルナリ其妻ノタメニハ姑ナルモ
 ノ喪一テ孔子ノ姪女ノ為ニハ大切ニスベキ禮ナル
 故ニ孔子コレヲ誨給ヘルヲ見セントテ又妻之姑ト書
 タルナリ之喪ノ之字ハ乃チ常例ノ之ノ字ナリカヤ
 ノ処其一處クニ之字ヲ置ガレバ孔子ノ誨ヘ給ヒタル
 ワケノ分ラヌトナル故ニ一處クニ之字ヲ用ヒ讀人
 ノ心ノ符牒ス其處ゴトニ心ヲワレニ持コマシクテ聞
 サントテ右ノ如クニカケルモノナリ假リニコレヲ言
 ハズ段々已前ノ符牒ヲ合セ合點サセテサテ今ノ正面
 ノ処マデニ思ヒイタラセントスル意持ナリサテ此之
 字ヲ用ユル大意ハ品別ヲスルガ第一ノ旨ナリ晉語ニ
 暇豫之吾々不如鳥鳥人皆集苑已獨集於枯トイヘルハ
 人ノ苑ニ集リテ樂アルニ引ワケテ已ハヒトリ枯レタ
 ルニ集レリト云コヽ口モチナリ詩陳風ニ泌之洋洋々ト
 イヘル之字ハヲバトヨムベシ是ハ小水ヲバ洋洋々タル

而

大水ナリト思フベシト云フナリカヤフナル差別ハ全
 体ノ語意ニヨリテ辨知ルコトニテ之字ノ置カタハ同シ
 一ナリ又之字ヲコノトヨムノ例ハ此是ノ下ニ出ズ
 此字シテト讀フナレト本邦ノ語ニシテト云フハ只其
 事ノ其次ニツクコトヲ言ニトスルニ右ノシテト云辞
 ヲ用ユ文字中ノ而字ハ右ト小異アリテ其事ノツクキ
 ヲ語ラントスルニ譬バ二ノ次ノ三ヲ語ルニ其二ヲ別
 カケテ持タセ置キテサテフレニ三ヲ加ヘテ思ハスル
 ニ而字ヲ用ユ本邦小兒ノ戯ニ自カラ右手ヲ以テ其左ノ
 耳朶ヲツマミ左手ヲ以テ其鼻ノ尖ヲツマミテ三四返マ
 ワルコトヲスルコトアルガ右ノ事ヲ語ルニ右手耳朶ヲツ
 マミ左手鼻尖ヲツマムトノ三言ヘバ耳朶ヲツマミヤ
 ミテサテ鼻尖ヲツマムトニ聞取リテハ詮ナキコトナル
 ガ其間ニ右ノ而字ヲ加ヘテ右手耳朶ヲツマミ而左手
 鼻尖ヲツマムトイヘバ右手耳朶ヲハナレヌトニシテ
 聞クコトニナルカヤフコトコト即チ而字必用ノ処ナリ

右ノ故又更ニ細ニ其所以然ヲ明サントナラバ凡ク文
 理ト云モノハ但一スチナルモノナリ故ハ人ノ神氣ハ
 即チ天地ノ神氣ニテ國語ニモ神者聰明正直而壹者也
 トイヘリ右ノ壹ナル神氣ニ其言フトコロヲ聞セテサ
 テ其思ヲバ其言フ辞ノ象ヲモタセテハコトバスコトナル
 故ニ幾ハナモ路アリテハ神理ニ違ヒテ通セヌトナ
 ル故ニ文理ハ但一スチナルモノナリサレバ其スチラ
 ツタヒテ段々ニ次ヘカワリクスルハ右ノ一スチラマ
 ギレヌ様ニ立テ辞トシ即チ文理トスルコトナルガ物ニ
 ハ又表裏陰陽向背アリテ此裏背陰ハ皆幽ノ属表向陽
 ハ皆明ノ属ニテ物ヲ語ルニ其ヲ併セテ喻サレバ通
 ゼヌトアリ右ノ文理ノ一スチナルニ於テ物ノ幽明ヲ
 併セテ語レバ其明ナルガ文理ノ正面ノトナリテ其
 幽ナルハ其明ニ旁帯タル依リ物トナル而ノ字ハイツ
 ニテモ此幽明ノカスガヒニテ幽明ヲ併セテモタスル
 タメニ用ユル文字ナリト思フベシサレバ本邦ノ助辞

ニ用ユルシテト云フ語ノ次クヲ立テユクタメニ用ユ
 ルトハ全体ノ趣相違セル字ナリト心得ベシサテ右ノ
 幽明ト云フヲ古言ニ徴シテ知ラントナラバ先ツ論語
 ニ學而時習之トアル學ハマナビテオキテト云フニ四
 ル故ニ幽ナリ時習之ハ當面ノトナル故ニ明ナリ人
 不知而不愠トアル其上ノ人不知ハ人ノ知ラヌトガ
 リテモト云フニ回ル故ニ幽ナリ不愠ハ即其明ナリ六
 學ノ知止而後有定モ止ヲ知ルトアリト云フヲ會得シ
 テト云フナル故ニコレモ幽ノトナリ莊子逍遙遊ニ北
 冥有魚其名爲鯀鯀之六不知其幾千里也化而爲鳥其名
 爲鵬トイヘルモ化スルトニナリテサテ鳥トナルト云
 フナルガ其化シタルトヲカゲヘ回シテソレヲ持テサ
 テ其鳥トナリタル処ニ正南ニモ夕シ聞サント云フ而ト
 イヘルナリ又云奚以之九萬里而南爲ト云ルハ何トニ
 シコトニテ九萬里ニアガリ之キテサテソレニテ南
 ムキユクヤフナルトヲ以テセルゴト云フナリ凡而字

ヲ用ユルノ法後世ノ文ニテモヤハリ皆コノトオリニ
 シテ用ユルトナリ古文ニハ而字用タルト用ザルト紛
 ルトアリタトヘバ人無信トアリテモ聞ユベキニ論
 語ニ人而無信トアルハ人ト云フモテ居テト云フナル
 故ニ人而ナリ大學ノ可以人而不知鳥糸トハ人デアリ
 ナガエ鳥ボトニユカヌト云フヲ以テ言フテ立ツトカ
 ト云フコトナリ孟子ニ齊桓晉文之事可得聞糸トアル
 ハ只聞クヲ得ベシト云フナリ論語ニ夫子之言性與
 天道不可得而聞也トイヘルニハ而字ヲハサニタリコ
 レハカヤフニスレバソレナリニ聞クヲ得ラルト
 云フニユカヌト云フコトニ云フ而ト得トノ問ニカヤフ
 ニスレバソレナリニト云フキミヲ言フ語ヲ略シタル
 モクナリ孟子萬章ニ盛德之士君不得而臣父不得而子
 ト云ルハ而臣ハソレナリニ臣トスルナリ而子ハソレ
 ナリニ子トスルナリ左傳隱十一年ニ鄭莊公ノ許ニ命
 ゼシ語ニ天而既厭周德矣吾其能與許乎トアルモ天

ト而ノ間ニ上ニ言オキタル許ノ徳ヲ修シ。天ヲ敬スル
トヲスルト云。此處ニ挿ニ持テ。天ガコレニテト云コ、
口モチナリ。史記商君傳ニ。喟然嘆ト書キ。蘇秦傳ニモ。喟
然歎ト書キタルアルニ。又自序ニ。喟然而歎ト書キ。又司
馬相如傳ニ。听然而笑ト書ケルアリ。此ハ夕、喟然タル
様子ニテ歎シタルガ。喟然嘆ナリ。喟然タル様子ニテ。サ
テ嘆シタリト云フガ。而嘆ナリ。此ハ。其坐シテ居タル景
色ナドヲ書キテ。サテ其処ニテノ喟然歎ナレハ。而ヲ用
ユ。其故ハ。聞人ノコレヲ聞キ居レル心ノ象ニ。已ニ其列
坐シ居レル象ヲ目先ニ持チ居レル故ニ。先其喟然タリ
シ様子ヲ。其処ニモ夕セテ。サテ其語ノ意旨ヘ。聞人ノコ
コロヲウツシ聞サントスル故ニ。右ノゴト夕ニ書ク
ナリ。而字ヲ句末ニ置ク法ハ。詩ノ乎而ナリ。此義已ニ前
ニ辨ズ。今贅セズ。此而字。又然字ニ似タル使方アリ。下ニ
辨ズ。

然

此字本火ノ物ニモ上付キテ。其燄ノツタヒユク処ガ。其
形質ノ通りニナリユクト云。然ト稱スル故ニ。借用シテ
此物ノ實ノユキサマガ。其辞ニ形容シタル通りナルヲ
其トオリナリト許シ言フニ用ヒタルナリ。論語ニ。冉雍
ガ無乃太簡乎トイヘルニ。孔子答テ。雍之言然ト云タマ
エルハ。雍ガ言ヘル処ガ。實ニハスチハ其トオリユク
トナリト云タマヘルコ、口モチナリ。此然ノ字。是ノ字
ト紛ル、ト多シ。サレ氏。是也ト云ハ。物ノアタリガ。ツレ
カコレカトスルヲ。コレガ其物ニアタルト云フガ。是非
字ニ元非ノ反對ナリ。孟子ニ。前日之不受。是則今日受。非
也。今日之受。是則前日之不受。非也ト云類ニテ推知ルベ
シ。然バ右ニ云ル如ク。物ノユキサマガ。其辞ノトオリニ
アレバ。然ナリ。其トオリニ合サレハ。不然ナリ。莊子齊物
論ニ。惡乎然。然於然。惡乎不然。不然於不然。トアルモ。コレ
ヲ以テ辨ジ知ルベシ。サレバ。齧缺問乎。王倪曰。子知物之
所同。是乎ト云ルモ。物ノサマクナル多勢ガイヅレモソ

レハ。コレガフレヂヤトスルトコロハ。コ、ナリト云ト
 コロヲ知ルヤト云フナリト心得ベシ。道遙遊ニ。連叔曰
 然。トイヘルハ。サソサヤフニ。アルベキナリトイヘル
 コ、ロナリ。サテ此然字ヲ語辭ニ用ユルトキハ。十ガ七
 ハ。トウク然字ノ下ハ。上ヲ打カヘス語勢多シト心得ベ
 シ。其故ハ。辭ノ常理ニテ。物ノ其通りニユクフヲ許スハ
 先ヅ其スヂヲ立テトオラシテ。其ハツニヲ一ヌキヌカ
 セテ。サテ其許サヌトコロノフヲ合點サスルコ、ロモ
 チナリ。史記鄒衍傳ニ。其上ニ中國ノ九州ハ一州ニテ。其
 九州ヲ一州トシタル如キモノ。九ツアリテ。其外ヲ裨海
 ガクレヲメグラシ。其裨海ノ環レル如キモノ。又九ツア
 リテ。大瀛海。其外ヲメグレリ。天ト地トノ打合ナリト云
 後ニ。其術皆此類也。然要其歸。必止乎仁義節儉君臣上下
 六親之施。始也。濫耳。トイヘル然字ノ如キモノ。其始メノ妄
 誕ナルフノ限リモナキ様子。人々ソレヲ見テ思フ
 トコロヲフレニシテ立テトオラシテ。秀フレハソレニテ

アレドモ。其落着ノ處ヲツメタルトコロハ。ゼヒニ仁義
 節儉ニ止ルフニナリアルガ。其ヲ言始ムルニハ。法ニハ
 ツレテ言出セルバカリナリト云フナリ。平原君傳ニ。眞
 卿ハ魏齊ニ忍ビサルニ及ニテ。卒ニハ大梁ニ困メリ。庸
 夫モ且知其不可。况賢人乎。然眞卿非窮愁亦不能著書。以
 自見於後世。云トイヘルモ。魏齊ヲスワルニ忍ヒズシテ
 趙ヲ去リ艱苦シタルヌ。智者ニテハ知ラヌフニテハア
 ルマシト思フト云ヒテ。サテソレハソレニシテ立テト
 オラシテ。ソレハソレニテアレドモ。眞卿ハ窮シテ愁夕
 ルニ非ズハ。書ヲ著ハシテ後世ニハ知ラレマシト云フ
 チヤト云フナリ。刺客傳ニ。自曹沫至荊軻五人。此其義或
 成或不成。然其立意較然不欺其志。名垂後世。豈妄也哉。ト
 イヘルハ。五人ノ義ノアルトヨロ事ノ成就不成就ノ差
 別アレド。ソレハソレニテアレド。意ヲ立テタルトコロ
 キツカリトワカレノ立チテ。其志ヲ欺カザレバ。其名ノ
 後ニツタワルフガ。アタリノナキフテアラフカイト云

一ナリ、何レニモ、此然字、物事ノ外ガハノ様子ノ善ニ
 テモ、惡ニテモ、ツレト立チテ見ユル處ヲ先ツツレナリ
 ニシテ立ツツニシテ、サテ其内ツラノ實ニツレニ因ラ
 ガル一筋ヲ推シ立テ言ハントスルニハ、必ズ此然字ヲ
 用ユル一ナリ、又然ト雖、然トノ差別アリ、此ハ雖ノ餘下
 ニ辨ズベシ、又古文然ヲ用ユルニ、語ノ首ニ置クコトアリ
 詩、大雅ニ、帝謂文王、無然、畔援、無然、歆羨、又天之方難、無然
 憲、如天之方蹶、無然、泄々、トイヘル、然字是ナリ、コレハ、ヤ
 ハリイツイマデモ、今マデノ畔援ノトオリニナシ居ルコト
 ヲヤメテ、ツレヲ改メヨト云キ、三十リ歆羨、憲々泄々、並
 ニ此ヲ以テ準知スベシ、サテ而字ノ然ト紛ル、處ノ別
 ヲ辨ゼバ、史記南越傳ニ、南越内屬國之利也、而相君苦不
 便者、何也、トイヘル、如キハ、然字ニ似タレ、此而ノ下ノ
 語意ニ、別ノスチヲ立ルコトナク、唯其而字ノ上ノ語意ニ
 持タル處へ持カヘシテ、其カツレヲ持テ、十ガテ、兩岐ニ分
 ル、処ヲ推シ、問意ナル故ニ、而字ヲ用ユルナリ、平準書

ニ、今天下不幸、有愈而式奮、願父子死之、雖未戰、可謂義形
 於内ト云ルモ、今天下ノ不幸ニテ、南越ノ反セル急アリ
 テ、ソレヲ持タルニ、ト式ハ自カラ奮テ、父子共ニ往キ戰
 死セシ、ト願ヘルハ、戰カハザレ、其義ナルコトハ、内
 ニアテハレタリトイハル、ト云フニ、此而ノ字、ソレ
 ヲ持タルニ、ト云フニ、アタルナリ、左傳昭七年ニ、昭公楚
 ニ往キテ、楚子公ヲ新臺ニ享シ、大屈ノ弓ヲオクリテ、後
 ニソレヲ悔シニ、遂啓疆ソレヲ聞テ、昭公ニ見ヘテ、ワザ
 ト拜賀ス、公曰、何賀對曰、齊與晉越欲此久矣、寡君無適與
 也、而傳諸君、君其備禦、三鄰慎守寶矣、敢不賀乎、ト云ルハ、
 大屈ノ弓ハ、齊晉越ノ三國ヨリ望ラカケタルモノナリ、
 此寡君ヨリイツレヘトシ、與ヘヤフナキ故ニ、今君ニソ
 レヲ傳ヘラレタリ、君ハコレヨリ右ノ三隣國ニ備ヘテ、
 奪ニ來ルヲフセガレヨ、慎テ守ルハ、寶ナレバ、賀スルナ
 リトイヘルナリ、此而字、ソレニ意ヲモツテト云コ、
 口ニテ用タルナリ、サレバ、此而字ハ、上ニ言タル語ノ事

アルニ立カヘリ思ハセテ其ヲ心ニ持テブレニ付ケテ
 後ノ事ノ出テ來リタルヲツナギ合セテ聞カセントテ
 右ノ而字ヲ用タルニテ然字ノ打カヘス意トハ相似タ
 ルヤフナレト各段ノ別勢ナリ又然而トツバクアリ
 韓非子說難ニ此ニ說者其知皆當矣然而甚者為我薄者
 見疑トイヘルハ其知皆當ルト云ニナリテ往キタルニ
 モソレヲ持タルナリニト云コ、ロニテ然而ナリ陳平
 傳ニ宣言諸將鍾離昧等為頂王將功多矣然而終不得封
 地而王ト云ルモ功ノ多キハ多ニナリ往キタルニソレ
 ニモツタルナリニト云コ、ロナリサテ又而字ヲ者ク
 ベキ処ヲ知ラザレバ而字ヲ加フベキ処モ明カナラザ
 レバ先ヅ而字ヲ者ケル法ヲ辨ズヘシ大凡文中ニ而字
 ニ限ラズ其語勢助字アルベキヲ者キタルハ多クハ前
 ニモイヘル如ク當面ノ辞トスル故ニセルモノナリ當
 面ノ辞トハ凡文章ニ書クハ並ニ皆今日ノ言語又文字
 ニウツシタルモノ故ニ全体ヲ先ヅ言語ナリト屬フ

ベレ凡今日ノ言語ニ物事ヲ言フニ其後ニ添ル聲ナキ
 ハ並ニ皆當面ノ辞ナリトタトヘバ我ハ只今來タト云フ
 ハ當面ノフニテソレヲウケサスル辞トナリ我ハ只今
 來タゾトゾノ字ヲソユレバ語リテソレヲ心得サスル
 意トナルウケサスルトハ其只今來タトバカリ云テ未
 及其アトヲ言ワザレバ聞入ノ心ヲ其辞ノ内ニ引ツク
 ウケサスルナリ其後ニゾノ字ヲ付レバ已ニ早其ヲ聞
 入ノ心ノ内ニ心得サスル語氣トナルトナルガ而字ハ
 已前ニモ言タル如ク幽明ノカスガヒニ用ユル文字ニ
 テ夕々物ノ表ニ其裏ヲ合セテ聞カサント思フバカリ
 ノコ、ロニテ矣而字ヲ以テツナキ言タル意持ナル処
 ニテ此而字ノツナギタルハ夕々其旁帶シタルバカリ
 ノ心トナル故ニ而字アリナガラ尙未成ノ語トナレル
 トモアルナリ禮表記ニ彰人之善而美人之功以求下賢
 トイヘル如キ彰人之善ハ其幽ノフヲ彰ワスナリ美
 人之功ハ其明ノフヲ美トスルナリ右ノ二言ニテ其幽

明ニ於ケル処ノヲヲツナギ丸メテ言テサテツレテ以テ賢ニ下ランヲ求ムルヲラスルヲナリトイヘルナリ又而字ヲ累用シタルアリ易繫辭傳ニ夫易彰往而察來而微顯闡幽トイヘル是ナリ此彰往ハ明ニスルナリ察來ハ幽ニスルナリ右ノ二言ニテ其幽明ニ於ケル処ノヲヲツナギ丸メ言テサテツノ丸メタルヲ幽ニ持テソレニテ顯ヲ微ニスルヲモ幽ヲ闡クヲモナシユクト云フナリサレバ而字ハ其ヲ用フレバ右ノ如クニ幽明ヲツナギ合セテ物ニナル故ニ而字ヲ中間ニ挾ミタル語ハ自カラ聞人ノ記識界ニ半分ヲ明界ニカケテモタセル趣トナルヲナリ而ヲ省クノ法ハ其ツナグベキヲソナカズシテ此辭ノ内ニ其聞人ノ心ヲ引ツケ承ケサセテ彼ガ幽界ニ於テ自己ノ意ヲ以テ完成スルヤフニシテ聞カスコノ口モナリ故ニ而字アレバ已成ノ語トナリ無レバ未成ノ語トナリ當面ニナリテ活動ス然レバ其ツナガザル前語ガ冒頭トナルカ又ハ

斜挿トナルカニナリテ其全体ノ勢即チ當面ノ語勢トナルナリ史記張耳傳ニ貫高曰所以不死一身無餘者百張王不反也トイヘルハ不死ノ二字冒ナリ陳涉世家ニ百姓多聞其賢未知其死也ハ聞其賢三字斜挿ナリ依然笑喟然歎ナド依然喟然笑歎ノ爲ニ勢ヲ取ルノ冒ナリ凡ソ右ノ如クナル而字ヲ省キテ當面ノ語トシ言フタルハ並ニ聞人ニ其処ヲ見コマセテ其勢ヲ生タルヤフニシテ思ワセントテ右ノ如クシテ言ヘルナリト知ルベシ

助字詳解卷之一

明倫彙編

家範典

卷之二

四

